

奈良県立医科大学

学報

NARA MEDICAL UNIVERSITY

vol. **76** 2021
春号

Special Feature

理事長・学長からの
メッセージ vol.19

令和2年度 卒業式



奈良県立医科大学
Nara Medical University

Contents

特集	理事長・学長からのメッセージ vol.19	3
	令和2年度 卒業式	4
	令和3年度 入学式	6
	退任の挨拶	8
	就任の挨拶	9
	コロナの終末期の面会について、直接面会とタブレット面会ができた事例の紹介	10
	看護部の紹介	11
	令和3年度 公立大学法人奈良県立医科大学予算	12
	MBT 研究所だより (第20報)	14
	図書館だより	15
	国際交流センターだより vol.3	16
	先端医学研究支援機構だより	17
Campus News	携帯端末による遠隔画像確認システムの利用スタート	18
	JPIカンファレンススクエアでMBT講演をしました	18
	東大寺修二会や奈良ホテルでのコロナ感染対策を協議	18
	奈良ホテルで新型コロナウイルス感染を防ぐための模擬立食パーティーを開催しました	19
	TQM大会表彰式を行いました	20
	臨床研究県民公開講座をハイブリッド形式で開催しました	20
	リサーチクラークシップ参加学生の筆頭著者論文がPLOS ONEに掲載されました	21
	大和漢方医学薬学センター委員会を開催しました	21
	コロナ感染対策オンライン勉強会にて講演しました	21
	近畿大学を中心とした「ひと・まち・未来研究会」がMBTを訪問	22
	MBT ウエルシア薬局健康ステーションを開催しました	22
	超音波ガイド下手術・手技研究会を立ち上げました	22
	今井町における健康教室が橿原市の第4次総合計画に紹介されました	23
	関西経済同友会にてMBT コロナ克服キャンペーンの講演を行いました	23
	産学連携の奈良県コーディネーター会議に参加しました	23
	積み上げた実践的知識を届ける方法を議論	23
	協定大学共同研究助成事業成果報告会を開催しました	24
	スーパーシティ構想実現に向けて講演を行いました	25
	株式会社三笠様より靴下の贈呈がありました	25
	研究不正防止研修会を開催しました	25
Winner Report	第229回日本内科学会近畿地方会で若手奨励賞(優秀演題賞)を受賞しました	26
	第4回バイオインダストリー大賞受賞	26
	第230回日本内科学会近畿地方会で若手奨励賞(優秀演題賞)を受賞しました	27
	第108回日本泌尿器科学会総会総会賞ポスター 部門(排尿障害:臨床)	27
	第42回日本光医学・光生物学会において学会賞を受賞しました	27
	国際ソロプチミスト奈良—あすか女性研究者賞を受賞しました	27
	第7回アジアオセアニア臨床神経生理学会で優秀演題賞を受賞しました	28
	令和2年度 TBL Best Teacher 表彰式を行いました	28
	令和2年度 FD 活動表彰式を行いました	28
	令和2年度 学位授与の状況	29
Information	公開講座情報	30
	令和3年度入試結果	30
	編集後記	30
	未来への飛躍基金だより	31
寄附者ご芳名	「未来への飛躍基金」にご協力いただきありがとうございます	31
	メディア掲載情報	32

奈良医大を世界に存在感を示す特別な医科大学に！

－ MBT 医工学の提唱 －

理事長・学長 細井 裕司

新執行部体制

法人の副理事長には、県庁から柘井和也氏が着任されました。また、理事（総務・経営担当）、事務局長には前法人企画部長の宇都宮弘和氏が就任されました。林前副理事長、西浦前理事の退任に伴い、経営審議会、教育研究審議会委員も柘井、宇都宮両氏に交代しました。奈良医大のますますの発展に寄与していただけるものと期待しています。

新型コロナウイルス感染症に対する 全学一致の取り組み

新型コロナウイルス感染症に対する奈良医大の全学を挙げた取り組みは、臨床だけでなく研究においても、頻回にマスコミ等に取り上げられました。みなさんのこのような貢献に対し、MBT コンソーシアム会員メンバーから感謝の品が全教職員に贈呈されるなど、多方面から感謝の意が表されています。

MBT 医工学の提唱

MBT を発展させ、より MBT の精神を具現化した「MBT 医工学」を提唱し、奈良医大を世界のメッカにすることによって、奈良医大の存在感を一層高め、奈良医大を他の医科大学を超えた特別な医科大学にしたいと考えています。

「一般の医工学」は、医療機器の研究・開発、また、その人材育成のための学科等が設置されています。ここに提唱する医工学が貢献するのは医療分野だけでなく、人間が直接関与するすべての工学・産業分野です。人材育成も「医学的知識をすべての学問・産業分野に投入しイノベーションを起こす」人を育てることになります（注1）。

私が耳鼻咽喉・頭頸部外科学の教授であった2004年にMBTの前身である住居医学を発想し、大和ハウス工業（株）にお願いして、寄付講座をいただいたことが、「MBT 医工学」発想の始まりです（注2）。工学が医学に貢献する「医用工学（Medical Engineering）」に対し、医学が工学や産業創生に貢献する概念を「MBE（Medicine-Based Engineering）」と名付けました。このMBEの概念を実現する場所は人が住む「まちなか」であり、まちづくりの中で実現されていきますので、「MBT（Medicine-Based Town、医学を基礎とするまちづくり）」を標榜しています。

MBT を最も端的に言い表すために、私は「医学とは、人を研

究する学問、人を知る学問です」という言葉を用いています。人が使う製品やサービス、人が住むまちづくりには医学の知見が不可欠です。人を知らずに作られた製品・サービスやまちは、人の害になるものや、役に立たないものになりかねません。「製品・サービス、まちを作る前に人を知りましょう」と企業に正しい医学知識の重要性を訴えています。

MBT の概念を実現するため、奈良医大に MBT 研究所と一般社団法人 MBT コンソーシアムを設立しました。企業に正しい医学知識を提供し、企業とともに医学的に正しい「ものづくり」を行うことにより、イノベーションを起こし、社会に貢献することを目指しています。2021年3月時点で、建設、鉄鋼、電気機器、不動産、運輸、情報通信、エネルギー、サービスなどほぼすべての業種から日本を代表する多くの企業を含む193社（団体）がコンソーシアムの会員となり、奈良医大と共に活動しています。新型コロナウイルス感染症においても、奈良医大は MBT コンソーシアム会員企業の力を得て、社会に貢献することができました。

奈良医大の医学をこれら企業の技術や知識と融合させることにより、MBT をより一層学問的に発展させた「MBT 医工学」を確立していきたいと考えています。

【注】

1. 一般の医工学と MBT 医工学の相違

一般に医工学と言われるのは「工学的な知識や技術を医療分野に応用」することによって「医療の発展に寄与する」学問分野です。CT、MRI、内視鏡、手術ロボットなどの開発に代表されるように医療機器を開発することに主眼が置かれています。これに対し、MBT 医工学は、医学的知識をすべての学問分野・企業活動に投入しイノベーションを起こすコンセプトです。特に人が直接接する工業製品には医学の知識が必要です。人が見るもの、聞くもの、食べるもの、触るもの、匂うものなどの製品については、工学的知見と人についての医学的知見の両方が必須です。

2. 住居医学の発想（2004年）

医師は投薬や外科手術によって患者さんの健康状態の改善を図りますが、例えば、「高血圧の薬を2錠飲んでいて人が1錠で済むような住環境を実現するための研究」を共同で行うことを大和ハウスに提案しました。6億円の研究費は多くの教室に配分され、それぞれの教室の研究を活性化させることができました。

令和2年度 卒業式

式辞

学長 細井 裕司

今日のおき日、奈良県立医科大学医学部を卒業する113名、看護学科を卒業する83名の皆さん、ご卒業おめでとうございます。皆さんは小学校入学以来の長い学生生活を修了され、ここに学士（医学）、学士（看護学）の学位を得られましたことは誠にめでたく、心からお祝い申し上げます。

これは、何よりも皆さんの弛まぬ努力の結果であります。それと同時に、今日まで皆さんを慈しみ育ててこられた保護者の皆様方や、皆さんの人間形成や教育に御指導を賜った教員、並びに関係する皆様のお陰であり、このことに感謝の気持ちを持っていただきたいと思えます。

卒業後の人生をより一層輝けるものにするために2つの話をします。一つは母校奈良県立医科大学は皆さんの一生涯の宝であること、もう一つは皆さん方自身が飛躍するために重要な人生の考え方の話です。

奈良医大は一生涯の宝

満足のいく人生を送るために、最も助けになるのは友人です。大学時代の友人は、本当に親身になってくれるので、安心して相談ができる人々です。一生の宝です。

それにも増して大きな宝があります。それは母校奈良県立医科大学です。皆さんが卒業後、40歳、50歳、60歳になったとき、母校の力を借りる時があると思えます。奈良県立医科大学の卒業生で良かったと感じる時が必ず来ます。このことを、明確にするために、学内に「医療人育成機構」を立ち上げます。奈良医大に入学した人はその時点から一生涯、つまり卒業後も生涯教育等において、サポートするための組織です。いつでも母校奈良県立医科大学を頼ってください。

アントレプレナーシップ

次いで、二つ目の考え方の話をします。奈良医大は単に、82ある医科大学・医学部のうちの一つではありません。多くの巨大企業を含めて193社の企業集団であるMBTコンソーシアムをもつ、世界に類例のない医科大学です。この193社にはほぼすべての業種が含まれ、また、本社所在地別分類においても東京67社、大阪54社と全国規模となっています。この193の企業集団は平時においても奈良医大の活動を支えています。ひとたび災禍が起こると奈良医大とともにその大事に立ち向かいます。

このたびのコロナ禍においても、奈良医大はMBTコンソーシアム会員企業とともにコロナに立ち向かい、「オゾンが新型コロナウイルスを不活化すること」を世界で初めて発表し、権威ある国際的医学誌に掲載されました。この発表後、全国から33社が奈良医大の元に集まり、この国難を乗り切るための研究や製品開発を共同で行っています。奈良医大で発見した「柿渋が新型コロナウイルスを不活化する」という発表に対しても、42社がこの発見を応用した製品開発に挑戦しています。3月中には「奈良県立医科大学・MBTと共同開発」とパッケージに明記された商品が発売される予定です。奈良医大発見の光触媒の有効性の活用は23社、お茶の有効性の活用は3社が取り組んでいます。その他にも149社から新型コロナウイルス感染症克服に関する共同研究の申し込みがあり、逐次対応しているところ。このように企業と連携することにより、奈良医大の能力を奈良医大単独の場合より、一層大きく発揮することができ、より大きく世の中に貢献できるのです。

医学的研究は、論文作成が終着点となつてはならないと考えています。その研究内容が人々の役に立つ形となつて、すなわち、製品やサービスとなつて世界中の人々に貢献しなければなら





りません。奈良医大はこのような考え方に立って行動し、世の中で認められるようになってきました。

私は、この発想に沿って、奈良医大にアントレプレナーシップが根付くことを願っています。奈良医大の教職員は高いレベルで個々の患者さんに対する診断、治療、看護を行っていますが、その溢れる能力でより一層の社会貢献が行えるように、アントレプレナーシップを根づかせたいと思っています。

アントレプレナーシップは、「起業家精神」と訳されていますが、「新しい事業分野を切り開くために必要な、想像力や発想力、行動力、チャレンジ精神、リスクを恐れない勇敢さ」を意味しています。皆さんは卒業された後、奈良医大で学ばれた医学・看護学を基礎にして、個々の患者さんを救うことは当然

として、より一層世の中に貢献するために、アントレプレナーシップを持った医師、看護師になってください。

奈良医大は、他の大学にはない特徴を持って世の中に貢献する「特別な医科大学」になろうとしています。皆さん方もそのような特別な医科大学の卒業生としてのプライドを持って人生を乗り切っていただきたいと思います。

終わりに

最後に、私の好きな言葉を贈ろうと思います。それは、「挑戦する人か、挑戦する人にあれこれ言う人か」です。人生の分かれ道に立ったとき、思い出してください。きっと人生が豊かになると思います。「挑戦する人か、挑戦する人にあれこれ言う人か」本日は本当におめでとうございました。



新たな旅立ち（医学部卒業式 大学院修了式 令和3年3月15日）

今年も249名の若き俊英が旅立ちました。本学のみならず、広く日本、そして世界の医療・医学の向上に大きく貢献してくれることでしょう。（249名：医学科113名、看護学科83名、大学院医学研究科博士課程38名、同修士課程7名、看護学研究科修士課程8名）

また、式の中で、次の賞の受賞者が発表されました。（敬称略）

◆奈良県立医科大学学長賞

医学科6年間または看護学科4年間の課程で最も優秀な成績を収めた者

医学科：古橋 侑輔

看護学科：熊谷 茉佑子

◆医学科同窓会厳権賞、看護学科同窓会華権賞

- ①クラスのリーダーとして顕著な活躍をした者（ヒーローオブザクラス）
- ②ボランティア活動などで社会に特に顕著な功績があった者
- ③クラブ活動など課外活動で特に優秀な成績をあげた者

厳権賞：小倉 黎、田中 俊志、坂口 義彦

華権賞：表 里奈、嶋中 虹歌、山本 桜子

学長賞受賞者



医学科 古橋 侑輔

この度は栄えある学長賞を頂戴しまして、誠に光栄に存じます。私にとって身に余る栄誉であるだけでなく、大学生活を振り返る良い機会となりました。

入学以来、講義や実習などを通して、大学内外の多くの方々とお出合ってきました。懇切丁寧にご指導いただいた教職員の皆様、勉強環境をご支援いただいた大学関係者の皆様、共に学び共に遊んだ同級生たち、病院実習でお世話になった患者の方々に至るまで、全てが忘れられない出会いです。受賞に当たり、すべての出会いに、また、日々を支えてくれた家族に感謝するばかりです。この場を借りて、心より御礼申し上げます。

今後ともこの受賞を励みに、果て無く広がる医学の道で精進を重ねていきたいと思っております。より一層のご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。



看護学科 熊谷 茉佑子

この度は学長賞という名誉ある賞を頂き、大変光栄に存じます。

4年間を通して、想像以上の多忙さに圧倒されましたが、自身の看護の力によって人の幸せに貢献できる日を夢みて、日々研鑽に努め、常に全力で取り組んできました。挫けそうな時もありましたが、時に優しく、時に厳しく熱心にご指導くださった先生方や友人を始め、多くの方の支えにより今の自分があるのだと痛切に感じます。改めて、全ての方々に心より感謝申し上げます。

4月からは看護師として新たな日々が始まります。これまでの学びを想起し、目の前の患者さんにとっての最善とは何なのかを常に考え続け、真に寄り添った看護を実践できるよう、努力を重ねていく所存です。そして、微力ながら奈良県の医療に貢献し、御恩をお返しできるよう努めて参ります。今後ともご指導・ご鞭撻の程、宜しくお願い致します。

令和3年度 入学式



式辞

学長 細井 裕司

入学式

今日、春爛漫の良き日に医学部看護学科 85 名、医学部医学科 113 名、同 2 年次編入学生 1 名、合計 199 名の晴れやかな入学生の皆さんを奈良県立医科大学に迎えることができますのは、私どもの大きな喜びとするところであり、入学生の皆さんに対し心から「おめでとう」と申し上げるとともに、大学を代表して歓迎の意を表します。

また、入学する学生を今まで慈しみ、支え、育ててこられた、ご両親やご家族の皆様に対して心からお慶びを申し上げます。

本来であれば、入学生の皆さん、保護者の皆様、そして来賓の方々をこの場にお招きして式典を挙げる所ではございますが、本日は、新型コロナウイルス感染症の対策で、皆様方の安全を最優先するため、教職員、同窓会長様のみで挙行し、その模様をウェブ配信させていただいています。

はじめに

皆さんは、私がそうであるように、奈良県立医科大学に入学し、奈良医大で学んだことが人生を通して本当によかったと思うと私は確信しています。この思いは時を経るにつれ大きくなっていきます。つまり、看護学科生は 4 年生になり、医学科生は 6 年生になり、卒業し、看護師になり、医師になり、経験を積んで、看護師、医師としての自信に満ちあふれるようになり、そして、還暦を迎え、人生を振り返る時「奈良医大で学んで本当に良かった」とここにいる皆さん全員が感じるはずですよ。

なぜそう思うのかの根拠をお話します。

6つの根拠

まず、第 1 に荒井知事をはじめ奈良県が医療に熱心なことです。2024 年には現キャンパスの場所から 1km ほど離れたところに新キャンパスが開設されます。その後も新病院棟をはじめ現キャンパスのリニューアルが計画されています。

2 つ目は、皆さん方の先輩の多くが卒業後に他府県に行か



ず、奈良医大や奈良県の病院に就職していることです。その例として、2019年度医師臨床研修マッチングにおいて、奈良県は2004年にこのマッチングの制度が始まって以来、史上初めて100%の充足率を達成しました。奈良医大の卒業生の多くが奈良県で就職したことに加えて、他府県からも奈良県への就職希望者が多かったことがわかります。

3つ目は、本学の医学、看護学教育に対する取り組みです。例えば、ハーバード大学やミシガン大学等における3ヵ月間の海外実習制度などを実施しています。海外実習を行うための臨床英語教育、実習準備教育そして財政的支援にも力を入れています。

4つ目は、奈良県立医科大学「医療人育成機構」です。大学には面倒見のよい大学と放任主義の大学があると思います。本学は面倒見のよい大学を目指しています。「医療人育成機構」は奈良医大に入学した人はその時点から一生涯、つまり卒業後も生涯教育等において、サポートするための組織です。医師も看護師も一生勉強しなければならない職種です。母校奈良医大が全力でサポートします。

5つ目は、本学には他の医科大学や医学部にない、多分世界に例のない特徴があります。それは、MBTコンソーシアムという企業集団を持っていることです。MBT (Medicine-Based Town) 「医学を基礎とするまちづくり」とは、奈良医大発祥の「医学の力を医療産業だけでなく、すべての産業に生かすイノベーションを起こす」構想です。私が2004年に想起し、17年の時を経て、現在あらゆる業種から、そして全国から193社の有力企業が本学のもとに集まり、コンソーシアムを形成しています。首相官邸から補佐官に訪問いただくなど中央省庁においても注目されています。また、7年間で新聞、テレビ等で315回の報道がありましたので、ご存じの方も多いと思います。この193の企業の力が加わることによって、奈良医大は単なる単科の医科大学を超える能力を発揮しています。新型コロナウイルス不活化に関する世界初の四つの研究成果はその一例です。

6つ目は、アントレプレナーシップの育成です。アントレプレナーシップは、「起業家精神」と訳されていますが、「新しい事業

分野を切り開くために必要な、想像力や発想力、行動力、チャレンジ精神、リスクを恐れない勇敢さ」を意味しています。医師も看護師も個々の患者さんを救うことは当然として、より一層世の中に貢献するために、奈良医大はアントレプレナーシップを持った医師、看護師を育てようと考えています。ビル・ゲイツ（ハーバード大学）もスティーブ・ジョブズ（リード大学）も学生時代に起業しています。奈良医大ではMBTコンソーシアムのサポートを得て学生も起業できる環境整備を行っています。

おわりに

これらの本学の特徴を生かし、みなさんが有意義な学生生活を送られることを願っています。今回、新型コロナウイルスの影響で入学式には、保護者の方には出席していただくことができませんでした。本当に残念です。しかし、人生には予期せぬことが起こるということを新型コロナウイルスは教えてくれました。当たり前の世界に慣れている私たちに「当たり前でないこと」が起こりうることを教えてくれたともいえます。皆さんには、これから本学で学んで、どんな困難なことがあっても克服できるだけの知識と技術そして精神力を身につけていただきたいと思います。何事にも果敢に挑戦する人になってください。

最後に、私の好きな言葉を贈ります。「挑戦する人か、人の挑戦にあれこれ言う人か」、「挑戦する人か、人の挑戦にあれこれ言う人か」

本日は本当におめでとうございました。



退任の挨拶



副理事長 林 洋

7年間お世話になり本当に有難うございました。

この間本学では理事長の下、県とも連携してMBT、未来基金や新キャンパス整備、将来像等改革前進の取組が進められ、何よりに思いますとともに、今後一層の継続・展開を願っております。

私事では血液腫瘍を発症し、数か月の入院治療等でご厄介をおかけしましたが、お蔭様で大分回復してきております。患者の立場で医療に係る諸事に接し、大変貴重な体験になったと実感するところです。

4月からは（社医）平成記念会（平成記念病院等を運営）に勤務しております。本学に特に人材教育・育成や高度・先進医療等本学ならではの面でより力を発揮頂くためにも、地域の中核病院として地域医療の面でぜひ貢献していければと思っています。

今後とも宜しく願い致しますとともに、本学の一層のご発展を祈念申し上げます。



総務・経営担当理事・事務局長 西浦 嘉彦

3月末で理事・事務局長を退任しました。病院4年、大学1年、最後の2年間は現職として7年間お世話になりました。

在職中の一番の思い出は、小さな出来事だったのですが、ある先生から「西浦は戦友だ。」と言われたことです。大変嬉しく今でも心に残っています。

今後、新型コロナ終息後の法人経営をいかに軌道に乗せていくか、働き方改革、新キャンパス・新A棟整備など、大きな課題が控えています。

職種を超えて「戦友」を作っていくことが、課題に立ち向かう際の大きな力になると 생각합니다。どうぞ一人でも多く「戦友」を作っていただき、一丸となって20年後も主たる大学として存続し続けるよう本学を盛り立てていただければと願っています。

最後になりましたが、皆様からいただきましたご厚情に心よりお礼申し上げます。



広報・渉外担当理事 中川 裕介

ご挨拶が遅れまして、お詫びします。この度、一身上の都合により、令和2年10月末日をもって退任させていただきます。私事で恐縮ですが、11月29日、高取町の皆さまの暖かいご支援により、高取町長に就任させていただきました。

通算4年半、奈良医大に関わる仕事をさせていただいたのは、私の人生にとって大変に意義深いことです。

奈良医大は、奈良県医療のあらゆる分野のリーダーです。現在のコロナ対策においても、最前線でご活躍され、敬意と感謝申し上げます。

MBT、世界に羽ばたく医療人の育成、最善の医療の提供、新キャンパス整備、附属病院再整備、周辺まちづくりなど、奈良医大の飛躍、ビックプロジェクトは始まったばかりです。

細井理事長・学長を中心に、教職員の皆さまが一丸となって、着実に前進され、ますますのご発展をお祈りします。

結びに、これまでのご厚情に、心からお礼申し上げます。



胸部・心臓血管外科学 教授 谷口 繁樹

令和3年3月末を以て胸部・心臓血管外科学講座の教授を退任致します。平成10年7月1日付で教授就任以来、大学教職員の皆様方、各診療科の先生方、関係部署の皆様には、長きに亘りご指導、ご支援を賜り厚く御礼申し上げます。

就任当初に掲げました「高い質の外科治療の提供」を实践すべく標準手術の安全性・確実性の向上を基本とし、低侵襲手術、輸血量の削減に努めて参りました。そのことが今日の患者さんの高齢化に対応出来る手術の実践に繋がっていると確信しています。そして現在本学は成人心臓外科、小児心臓外科、大動脈・末梢血管外科、呼吸器外科の基幹施設として重大な責務を担っています。

大学運営、病院運営は次第に困難なものとなりつつありますが、今後とも皆様が一丸となり英知を結集され、奈良県立医科大学を素晴らしい発展へと導かれることを心から願っています。



精神医学 教授 岸本 年史

このたび精神医学講座教授を退職しました。1996年7月1日に県庁で柿本善也知事から辞令をもらってから4半世紀勤めました。精神医療センターの新築、奈良県総合医療センターに精神科病棟の開設を成し遂げることができ、また精神科患者の身体合併症・3次救急を本学が担い、大学を中心とした地域医療を展開するという全国屈指のモデルを作れたことは県のご理解、大学当局のご支援、病院スタッフや教室員の頑張りがあったのことに感謝しています。患者やその家族に還元すべく恥ずかしくない教育・研究もできたこともうれしく思っています。今後は御所市 秋津鴻池病院に奉職しますが、地域の医療・介護・福祉に貢献したいと思っています。今後ともよろしく申し上げます。



看護学科人間発達学 教授 飯田 順三

本年3月末をもちまして看護学科人間発達学教室の教授を退任することになりました。1981年に奈良県立医大を卒業してすぐに精神医学教室に入局し、40年間本学に奉職いたしました。前半の19年間は精神医学教室で主に児童精神医学の臨床と研究を行い、後半の21年間は看護学科人間発達学教授として看護学科の講義や児童精神科医として臨床と研究を続けてきました。特に看護学科では8年間看護学科長を務め、大学院修士課程の設置に尽力したことが記憶に残っています。看護学科と医学科の教員、事務や看護部の皆様、先輩や同僚や後輩など多くの方に支えられてきました。ここから感謝し厚くお礼を申し上げます。

就任の挨拶



副理事長 ますい かずや 栢井 和也

この度、林前副理事長の後任として、4月1日付けで副理事長に就任させていただきました。

私は、大学卒業後、奈良県で、奈良新『都』づくり戦略のとりまとめなど38年間行政の業務に携わってきました。コロナ禍の中、極めて重要な医療業務に携わることとなり、重責に身の引き締まる思いをしています。

就任前後に、理事長から、全国的に存在感のある大学になるための「ブランド力の向上」、[MBT]構想などについてお伺いし、その奈良医大への熱いお考えに深く共鳴しております。

今後、理事長の補佐役として、奈良医大の一員として、微力ですが全力を尽くしてまいります。ご指導、ご支援を賜りますよう、どうかよろしくようお願い申し上げます。



総務・経営担当理事・事務局長 うつのみや ひろかず 宇都宮 弘和

このたび4月1日付で、西浦前理事の後任として理事（総務・経営担当）・事務局長を拝命いたしました。

微力ではありますが、伝統ある奈良医大のさらなる発展を目指し、全力を尽くして参りたいと思っております。関係する皆様方のご支援ご協力を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

2年前に法人企画部長として着任し、法人企画部の統括、新キャンパスへの移転整備等の各種施策に携わって参りましたが、これらの取り組みや考えをより一層発展させるとともに、効率的かつ有効な業務遂行を意識しつつ、職種を超え教職員一丸となって邁進する一助となるよう努める所存です。

新型コロナウイルス感染症の影響等で社会環境は大きく変化しており、そうした中で建学の精神「最高の医学と最善の医療をもって地域の安心と社会の発展に貢献します」のもと、社会に貢献できる質の高い教育研究・医療機関を目指し、社会を支える有能な人材育成を目標として、鋭意取り組んで参りたいと考えておりますので、関係各位には一層のご協力を重ねてお願い申し上げます。

コロナの終末期の面会について、直接面会とタブレット面会ができた事例の紹介

総合医療学 講師 吉本 清巳

同居家族と別々の病院に入院となった高齢の患者さんの状態が悪化

2020年に新型コロナウイルスが流行した当初、志村けんさんや岡江久美子さんの訃報に触れ、終末期にお見舞いに行けない、亡くなってからも会えない、お骨になってからしか会えない、というとても悲しい報道がありました。

その後、奈良にも流行が来て、4月の第1波、8月の第2波、そして11月の第3波と当院にもかなり患者さんが来られるようになりました。8月の第2波では、ICUで亡くなられた患者さんがおられ、その直前にタブレット面会が実現しました。

11月の第3波では、全科診療となり、まさに病院一丸となつての診療体制となりました。そんな中、1月に、当科で担当した患者さんの、心に残る面会があったので、紹介します。

患者さんは80代後半の男性、血液透析をされている患者さんで、長女夫妻と同居されていました。3人ともコロナ陽性となり、透析が必要なご本人は奈良医大に、軽症の長女夫妻は南奈良総合医療センターに入院されました。

入院時は比較のお元気で、高度の難聴はありますが、お話も十分できました。5日ほどして、肺の状態が悪化し、少量の酸素が必要となりました。さらに2日後の夜、急に酸素化が悪くなり、リザーバースマスク15L/minまで酸素が必要になりました。同居の長女さんが入院中なので、県外に住む次女さんがキーパーソンになっていました。入院時から人工呼吸はしない方針でした。次女さんに状況を説明し、急変がありえることをお伝えしました。次女さんから「ビデオ電話で会えますか」とお願いがありました。病棟と相談し、グリーンエリアまで来ていただいて、タブレット越しに面会はできそうとお伝えし、翌朝相談することとしました。

遠方家族の直接面会と他院入院中の同居家族とのタブレット面会が同時に実現

翌朝、南奈良総合医療センターの長女の主治医から、本人と長女のタブレット面会ができないかという打診がありました。次女さんに危篤であることを伝えたので、長女さんに伝わったのだと思います。今まで、院内のタブレット面会はありましたが、他院とつないでのタブレット面会は初めてです。感染症内科の先生と病棟、先方とで、様々なところに調整、確認いただいて、病院間をつないでのタブレット面会の許可が下りました。

ご本人は、思いの他呼吸状態が改善し、酸素5L/minまで回復し、お話もできました。肺炎の悪化よりも、一時的な痰詰まりの影響が大きかったようです。次女さんは遠方なので、すぐに家を出られるとのことでした。病棟から、ご本人がかなり難聴でお話づらいこともあり、タブレット面会ではなく、防護服を着ての直接面会を提案いただきました。次女さんに「防護服を着て直接面会をすることもできます」とお話ししました。最初は喜びながらも迷っておられました。その時は決断されませんが、再度病棟から電話をした際、次女さんは防護服を着ての面会を決意されました。

看護師の指導の下、防護服を着て訪室いただきました。ご本人は、すぐに次女さんとわかり、とてもとても嬉しそうにされていました。次女さんも慣れた手つきで筆談を始められ、直接面会が実現しました。

そこに、南奈良総合医療センターの長女さんとタブレットがつながりました。病棟と先方とで、次女さんの来院を見計らって時間調整をしていただいていた。病室にタブレットを持っていき、次女さんがタブレットを持って、家族の面会が実現しました。長女さんも、筆談でご本人とお話されています。これもタブレットならではの面会でした。20分ほどの面会でしたが、感動の面会でした。写真を撮らせていただき、すぐに写真を印刷し、次女さんに応援メッセージを書いてもらって、ご本人の見えるところに飾りました。

翌朝、当科の主治医が、ご本人の元へ行き「昨日、次女さん来られていましたね」と言うと、嬉しそうに、飾ってあるメッセージ入りの写真を指差してくれました。

最後の面会

回復に向かうかもしれないと思っていましたが、徐々に悪化し、その5日後に意思疎通ができなくなりました。前回の面会から1週間後、次女さんは、今回はお話ができないので、防護服は着ないで、窓越しのタブレット面会をされました。意識のない状態でしたが、タブレットを通じて、お孫さんみんなからのメッセージを次女さんは読み上げておられました。

長女さんが、そろそろ退院できそうとのことと、次女さんは、長女さんが最後に本人に会えずに、お骨で会うことになるのは避けたい、とおっしゃっていました。しかし、状況は改善せず、翌日には透析も回せず、最後の面会から2日後に亡くなられました。長女さんはその日に退院されました。

翌日のお見送りの際に、ビニールの納体袋で、お顔が見える状態で、長女さんに会っていただくことができました。その後火葬場への直接出棺となりました。

一時は回復するかと思える時期がありましたが、悪化のスピードが早く、改めて新型コロナは怖い病気であると思い知らされました。患者様のご冥福をお祈りいたします。振り返ると、ご本人がしっかりお話できるときに面会できたのは、奇跡的なタイミングだったのだと思います。多くの方のご協力の元、面会が実現しました。ありがとうございました。



タブレット越しの面会の様子

看護部の紹介

新生児集中ケア認定看護師としてのこれから

E棟4階 NICU 伊東 聖子

新卒でNICUに配属になり、新生児看護の魅力を知って20年、この度、念願の新生児集中ケア認定看護師の認定審査に合格することが出来ました。認定審査に向けて勉強をすればするほど、小さな命を預かる怖さを知り、預かる命の未来を左右することに震えていました。それでも、命懸けで生まれてくる児を大事に育めるこの仕事はとても幸せでやりがいがあります。言葉で表現しない新生児の声を私たち看護師が表情や動き、バイタルサインで聞き分け、何を求め、何が心地よくて、何が不快なのか必死に考えて、アセスメントすることは目の前の新生児と会話をしているようでとても嬉しくなります。そんな新生児の声をNICU、GCUの仲間と聴くことができるように、認定看護師となったこれからもより実践能力を高め、新生児との会話方法を語っていきたくと思います。また、新生児だけではなく家族に寄り添い、養育レジリエンスを高められるようにチーム医療に貢献していきたくと思います。



産科師長としてアドバンス助産師 初回更新を通して感じたこと

E棟5階 師長 吉川 紀子

2015年から始まったCLoCMiP®レベルⅢ認証制度とは、助産師の助産実践能力を審査して一定の水準に達していることを認証する仕組みです。レベルⅢを認証された助産師は「アドバンス助産師」として、「自律して助産ケアを提供できる助産師」



であることを第三者に示すことができます。本認証制度は5年毎の更新制で、2020年度に初回更新がありました。

産科病棟では私を含めた6人が更新申請を行い、12月に全員認証を受けました。申請には、①定められた助産ケア実施例数を満たしていること、②15項目以上の指定研修受講、③学術集会参加の条件があり、個々が計画的、積極的に取り組む必要があります。私自身も今回の更新申請で母児を取り巻く現状を再認識し、「自己の知識や技術をブラッシュアップすることができ、助産実践能力の維持・向上、専門性を高めることに繋がる」というラダーの目的を達成出来ました。

一方、師長として実施例数承認のために各申請者のポートフォリオを確認することで、助産ケア実践状況やプライマリーケースの記述から、申請者それぞれの助産観を垣間見ることが出来ました。

助産師として妊産褥婦に対し自律してケア実践を行うことは、より個別的なケア提供につながります。今後は妊産褥婦と病院に対してアドバンス助産師の認知を図ることと、アドバンス助産師を目指すスタッフ育成の2点に対し、積極的に取り組みたいと思います。

私にとってのアドバンス助産師の 意義と今後の目標

E棟5階 竹下 幸枝

アドバンス助産師には妊産褥婦・新生児・家族ハイリスク化への対応、地域包括ケアの推進・生涯にわたる女性の健康推進と時代のニーズに対応できる助産師教育が求められています。当院のバースセンターはまさに、妊産褥婦の経過に責任を持ち自律した実践ができ、ハイリスクへの移行を早期に発見し対処できる実践能力を身につけていることを認証するアドバンス助産師としての力を存分に発揮できる場でした。しかし、コロナの状況においてこの活躍の場は一転しました。妊産褥婦やその家族を含めた育児支援などにおいて助産ケアの限界を感じている中、更新の2020年を迎えました。自分にとってのアドバンス助産師としてこの時代に何を求められているのだろうか！と自問自答しながらの認定試験となり、5年前の認定試験よりもさらにアドバンス助産師としての責任の重さを感じるようになっていました。



産科医療の質の向上には、アドバンス助産師に求められる役割は大変大きいと考えます。私は今後アドバンス助産師として、妊産褥婦・新生児を対象とした周産期医療を担う各科の架け橋となるような存在となりたいと考えています。また教育においては、学生や後輩のチャレンジを支え、ニーズと質の向上を意識し共に成長していける実践の場を、多くのアドバンス助産師と共に整えていきたいです。

令和3年度 公立大学法人奈良県立医科大学予算

令和3年度は、3年目を迎える第2期中期目標の確実な達成を目標とし、中期計画の遂行やキャンパス整備検討に必要な予算について、病院収入以外にも県等からの支援を活用し、必要な予算を確保するとともに、収入確保や経費削減、投資効果の検証など経営改善策の推進に主眼をおいた予算編成を行いました。

予算規模については、人件費や診療経費等の増加が見込まれ、令和2年度の558.2億円と比較して7.9億円増の566.1億円となりました。

令和3年度の主な取組として、新型コロナウイルス感染症対策のほか、建物の耐震対策といった施設整備や第3期中期計画にある「良き医療人の育成」や「県内基幹病院としての機能の充実」など、法人の将来を見据えた取り組みを引き続き行います。

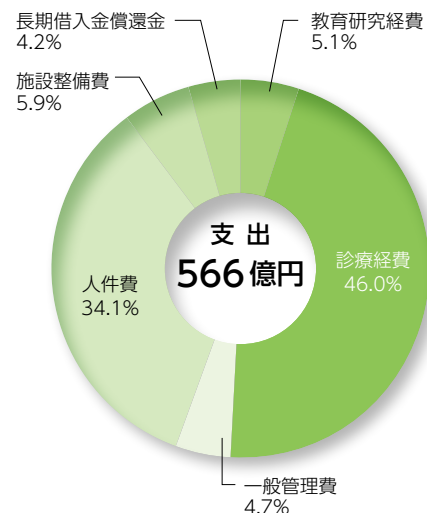
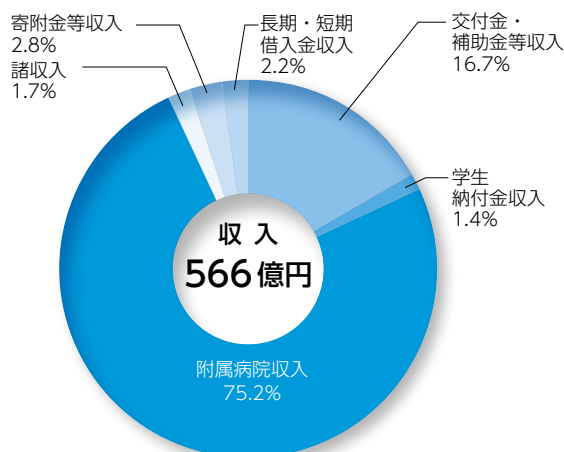
また、建物基本・実施設計、造成工事など、新キャンパス移転に向けた取り組みも引き続き行います。

法人の更なる発展のため、中期計画の円滑な遂行、効率的な法人経営の推進について、教職員の皆様には、それぞれの分野でのご協力を引き続きよろしくお願いいたします。

令和3年度予算の内容

収入	項目	予算額	構成比
収入	法人が自ら得た収入 (自己収入)	443.4億円	78.3%
	附属病院の診療報酬等 (附属病院収入)	425.7億円	75.2%
	学生が納付した収入 (授業料・入学金・入学検定料)	8.1億円	1.4%
	その他の収入 (諸収入)	9.6億円	1.7%
	他機関等からの支援 (交付金・補助金)	94.2億円	16.7%
	県からの支援 (運営費交付金等)	50.2億円	8.9%
	国等からの支援 (補助金収入)	44.0億円	7.8%
	職員が集めた収入 (受託研究・寄附金等収入)	15.8億円	2.8%
	借入金 (長期借入金等収入)	12.7億円	2.2%
	収入計	566.1億円	100.0%

支出	項目	予算額	構成比
支出	義務的に支払う必要のある経費 (人件費、償還金)	216.7億円	38.3%
	職員への給与の支払い (職員給与)	188億円	33.3%
	退職手当の支払い (退職手当)	4.8億円	0.8%
	借金の返済 (長期借入金償還金)	23.9億円	4.2%
	業務の運営に必要な経費 (業務費等)	315.9億円	55.8%
	大学での教育研究に 必要な経費(教育研究経費)	28.7億円	5.1%
	附属病院での診療に 必要な経費(診療経費)	260.5億円	46.0%
	法人の運営全般に 必要な経費(一般管理費)	26.7億円	4.7%
	施設整備や医療機器購入経費 (施設整備費)	33.5億円	5.9%
	支出計	566.1億円	100.0%



令和3年度予算の主要事業・新規事業

地域貢献

適切な医師派遣システムの確立、学生の県内就職率の向上

- 県立医大医師派遣センターの運営
● 県費奨学生配置センターの運営
35,800千円 (R2 23,600千円)
医師配置の一元的な運営体制のさらなる整備、県費奨学生の地域配置などの支援
- 県民健康増進支援センター運営費
18,300千円 (R2 18,300千円)
市町村や県の健康増進事業に協力するとともに、予防医学や健康づくりの適切な情報や研究成果を提供
- ドクターヘリ運航推進事業 253,400千円 (R2 253,400千円)
ドクターヘリ運航にかかる委託経費等

新新型コロナウイルス感染症対策強化事業 10,920千円
新型コロナウイルス感染症の感染拡大を抑制し、医療機関や介護施設などでの多発感染の発生を防止するための対策強化に要する経費

教育・研究部門

学生生活支援体制の充実、将来を担う優秀な学生の確保、研究成果の地域への還元、研究支援体制・研究環境の充実

- 良き医療人育成推進事業 35,372千円 (R2 44,700千円)
豊かな人間性に基づく高い倫理観と旺盛な科学的探求心を備え、最善の医療提供を行う強い意志を持った医療人の育成
- 医師・患者関係学講座事業 33,000千円 (R2 33,000千円)
医師としての人間性を育むための支援を行う講座の設置・運営にかかる経費
- 新**反転授業推進事業 300千円
学生の能動的学習を促進するため、「アクティブ・ラーニング」による新しい授業手法の導入に要する経費
- 重点研究推進事業 23,460千円 (R2 23,200千円)
血栓止血の制御に関する研究および画像下での低侵襲医療 (IVR) に関する研究
- 研究環境充実事業 22,000千円 (R2 21,000千円)
横断的共同研究への助成、若手研究者への助成、科研費申請への助成、公的研究費の不正防止など研究環境の充実に要する経費

診療部門

患者サービスの向上、病院機能の充実

- 病院機能評価受審事業 16,030千円 (R2 17,200千円)
病院機能評価の受審に要する経費
- 新**新型コロナウイルス感染症対策 39,111千円
来院者の検温、手指消毒薬の補充、面会制限の強化、受け入れ病棟の清掃など新型コロナウイルス感染症対策に要する経費
- 耐震対策事業(病院) 152,000千円 (R2 203,600千円)
耐震性能が低い施設 (A 病棟 (高層棟)、医局棟、管理棟、本館旧館棟) の応急対応を行うための経費
- 新**総合医療情報システムの整備 33,871千円
総合医療情報システムの安定稼働のための改修、Safety Netの整備、診療科別管理日誌追加対応などに要する経費

まちづくり

医科大学を中心としたまちづくりの推進

- 新キャンパスの整備 1,597,304千円 (R2 435,500千円)
文化財発掘調査、建物基本・実施設設計、造成工事、継続整備検討などにかかる経費

管理部門

法人組織の円滑な運営・福利厚生への充実、事務の合理化の推進

- なかよし保育園の運営 148,210千円 (R2 155,000千円)
職員の保育ニーズに対応するため、運営委託、病児保育委託を実施
- 働き方改革推進事業 27,767千円 (R2 8,600千円)
働きやすい魅力ある職場環境づくりに向け、職員の業務量調査や出退勤管理システムの改修等を実施
- 耐震対策事業 218,100千円 (R2 273,000千円)
耐震性能が低い施設の応急対策を行うための経費
- 防災・BCP関連経費 15,452千円 (R2 32,100千円)
大規模地震等の自然災害に備えた体制作りや備品の購入、施設の改修を行うために必要な経費

1. 奈良医大発ベンチャー立ち上げの勧め

(1) 細井理事長は年頭の挨拶で、本学を「存在感のある特別な医科大学」にするための方策の一環として「奈良医大発ベンチャー」の立ち上げを推進する所信を表明されました。すなわち、

- ①多くの医科の単科大学は「起業家精神(アントレプレナーシップ)は自分達には関係がない。」という固定観念を持っている。本学でも大学発ベンチャーは1社しかない。
- ②医師、看護師、研究者であっても、アントレプレナーシップは重要な要素であり、本学においては、「アントレプレナーシップは別世界なものでなく、当たり前の事」という環境を作りたい。研究は論文で終了とせず、人々に役立つ製品やサービスとなって社会に貢献するものであってほしい。
- ⑤ MBT コンソーシアムが伴走コンサルティングを行うので、気軽に相談して欲しい。

(2) この呼びかけに呼応して、多くの先生から MBT コンソーシアムにベンチャー立ち上げの相談がなされており、ビジネスモデルの検討、事業計画の策定等を行っているところです。関心をお持ちの先生はお気軽に連絡願います。

2. MBT ロゴマーク使用許諾

MBT ロゴマークの使用許諾が以下の5商品に新たになされました。

① 「MBT 感染症外来ユニット」

申請者：大和リース株式会社

新型コロナウイルス感染が疑われる発熱患者を一般患者と分離して検査や診察を行う目的で、病院構内や近場に設置でき、医学的環境を満足した、迅速に設置できるプレハブ型外来ユニットです。全国で本提案に基づくユニットの建築に貢献しております。

② 「電極穴付き MEP 用弾性ストッキング」

申請者：モード・ユニット工務株式会社

手術中の運動誘発電位 (MEP) のモニタリング電極を、ストッキング着用後に、切り欠きからなる電極穴から挿入貼付できるように改善した弾性ストッキングです。医療者の作業性の向上、および手術患者の皮膚ダメージ解消に役立ちます。

③ 「Safety Net・MBT」

申請者：ケアコム株式会社

心電計装置及び血中酸素飽和度 (SpO₂) モニタのアラート情報をナースコールシステムに連携し、スマートフォン上に波形情報をグラフィカルに表示させるシステムです。的確な患者の容態把握と、的確な急変時対応で患者の命を救うことに貢献します。

④ 「アルコールジェル手指消毒剤」

申請者：レック株式会社

指定医薬部外品「手指消毒剤」として薬事承認を得ており、

WHO が手指消毒剤として推奨するエタノール濃度 80vol% のアルコールジェル手指消毒剤です。

⑤ 「アルコール配合ウェットシート」

申請者：レック株式会社

市販されているウェットシートの中でも高濃度のアルコール含有となるエタノール濃度 55% を配合した除菌用ウェットシートです。

3. MBT コロナ克服キャンペーン

2月22日、MBT コロナ克服キャンペーンの一環として、有名ホテル、観光や旅行関係業者、奈良市の神社仏閣や商店街関係者など、総勢約60名にお集まりいただき、奈良ホテル「大和の間」で新型コロナウイルス感染を防ぐための模擬立食パーティーを開催しました。本パーティーは with コロナ時代において日常を取り戻す新しい試みとしてメディアの関心も高く、NHK、読売TV などテレビ報道3社、また、朝日、毎日、読売新聞などの新聞関係者や観光雑誌社など6社が取材に入り、この催しを社会に発信していただきました。また、MBT コンソーシアムでは関連資料を全国のホテル等に送付するとともに、動画を YouTube (<https://youtu.be/ErGZAtCzyx0>) にアップしております。



模擬立食パーティーの様様



開会挨拶する細井理事長

文献管理ツール EndNote の使い方

文献管理ツールとは、文献検索の結果（書誌情報）を整理し活用するためのツールです。文献管理ツールを使うと、過去に検索した文献を必要な時に取り出すことができ、レポート作成や論文執筆にとっても役立ちます。その中でも代表的なものが Clarivate Analytics 社提供の EndNote です。今回は、EndNote の使い方をご説明します。

■利用登録

まずは利用登録をします。手順は以下の通りです。

1. 学内ネットワークから「EndNote Online (basic)」のサインイン画面の右側に表示されている「Not a member yet?」の下部の「Register」をクリックします。
2. メールアドレス、任意のパスワードと名前を入力後、「Register」ボタンをクリックします。入力したメールアドレスに認証用メールが届いたら、メール本文中のリンクをクリックして完了です。

★パスワードの設定条件に注意！

■文献データベースから書誌情報の取り込み

登録ができれば、文献データベースから検索結果をダウンロードし、EndNote に取り込みます。

1. 文献データベースを検索し、検索結果を保存します。

【PubMed】

保存したい検索結果にチェックを入れ、「Save」をクリック、Format「PubMed」を選択し、「Create file」をクリック、ファイルを保存します。

【医中誌】

保存したい検索結果にチェックを入れ、「ダウンロード」をクリック、出力形式「Refer/BibIX 形式」を選択し、「ダウンロード」をクリック、「プログラムで開く」でメモ帳を開き、ファイルから「名前を付けて保存」、文字コードを「UTF-8」に変更し、保存します。

★文字コード変更で文字化け防止。

■オンライン版とデスクトップ版の違い

EndNote には、図書館で提供している機関オンライン版のほか、デスクトップ版もあります。デスクトップ版は個人での購入になりますが、容量制限がなく、PDF から書誌情報を取り込むことができるなど、機関オンライン版より機能が充実しています。

	EndNote (デスクトップ版)	EndNote Online (Basic) (機関版)
購入形態	個人購入	機関契約
利用形態	個人 PC+Web	Web
モバイル対応	iOS	iOS
インターフェース	英語	日本語
引用スタイル数	8,000 種類	3,300 種類
スタイル追加	○	管理者のみ
PDF 管理	○	○
ファイル容量制限	なし	2G
ダイレクトエクスポート	医中誌 Web ○ PubMed ○	医中誌 Web ○ PubMed ○
PDF から書誌データの取り込み	○	×
Word との連携	○	○ (要プラグイン)

文献管理ツールは学習や研究に欠かせないツールです。ぜひお役立てください。

【参考文献】 1) EndNote Online (basic) . <https://access.clarivate.com/login?app=endnote> (accessed 2021-3-10)

2) 田口宣行. 文献管理ソフトについて. 看護と情報, 2020;27:65-68 [書庫 2 層和雑誌 P-Kan]

3) 讃岐美智義. デジタル文献整理術: 最新 EndNote 活用ガイド第 7 版. 克誠堂出版, 2018 [2 階閲覧室北側単行本 490.7-San]

2. ダウンロードした検索結果を EndNote に取り込みます。

EndNote で、「文献の収集」メニューより「レファレンスのインポート」を選択します。1 でダウンロードしたファイルを選択し、インポートオプションを選択します (PubMed: PubMed (NLM)、医中誌: ReferBibIX)。インポート先を選択します。

★よく使うインポートオプションは「お気に入り」に登録しておくくと便利。

★さらに便利! ダイレクトエクスポート

PubMed と医中誌では、検索結果を一旦ダウンロードせず、EndNote へ直接取り込む「ダイレクトエクスポート」ができます。ただし、保存先のライブラリ指定はできません。

【PubMed】

「Send to」→「Citation manager」→「Create file」→「プログラムで開く」→EndNote にログイン→[未整理]ライブラリ内に保存

【医中誌】

「ダイレクトエクスポート」→「EndNote Web」を選択→[未整理]ライブラリ内に保存

■引用文献リストの作成

EndNote 内に保存した書誌情報を Word に引用文献リストとして挿入します。

1. EndNote 「ダウンロード」メニューより CWYW (Cite While You Write) をインストールします。
2. Word を開き、「EndNote」タブを開きます。「Style」で引用文献のスタイルを選び、「Insert Citations」をクリックし、EndNote から引用挿入する書誌情報のキーワード（雑誌名や著者名など）を入力し、「Find」をクリックします。
3. 引用挿入したい書誌情報を選択し、「Insert」をクリックします。

★引用挿入した書誌情報を編集・削除する場合は「Edit Citation (s)」を使います。

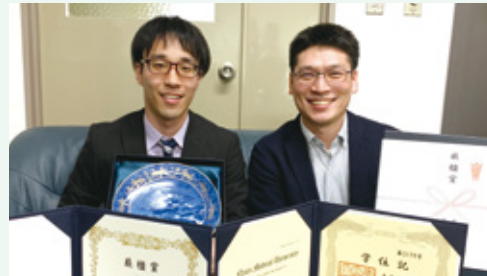
★投稿する雑誌のスタイルが登録されていない場合は追加することもできます。図書館へご相談ください。

国際交流センターだより vol.3

コロナ禍により海外との交流がなくなっていますが、そんな中、明るいニュースをお届けします。海外リサーチ・クラークシップOBとして活躍を続けている坂口さんから「厳檀賞受賞」の喜びの声を、また大野助教（総合医療学）から今年1月～2月に行われた「バンラデシュでの病院支援」という貴重なお話をご紹介します。

厳檀賞受賞報告 坂口 義彦 (2021年3月 医学科卒業)

この度は海外リサクラを契機に卒業まで続けてきた研究活動に対し、厳檀賞という名誉ある賞を授与頂いたことを大変光栄に思います。大学、同窓会、並びに所属研究室の多大なる支援のおかげで何ん自由ない研究活動を続ける事ができました。お世話になった方々に6年間の最後にこのような賞を頂いた事を報告できた事を大変嬉しく思います。研究に興味ある後輩たちには是非、大学の数ある研究支援制度を利用して、最先端の研究に挑戦して欲しいです。



左から坂口さん、森准教授

バンラデシュ病院支援報告 “Visit Bangladesh before tourists come.”

総合医療学/総合診療科 助教 大野 史郎

この度バンラデシュにある Japan East West Medical College Hospital 病院の拡張事業へ支援に赴く機会を頂きました。主な任務は移転に伴うER診療の整備で、実診療を行いながら、機材の整備、教育システム作りを行いました。バンラデシュには公的保険制度がなく全て自費診療のため、金銭的負担を厭って検査や対症療法以外の治療を断る患者もいます。そこで今回の支援では、いかに質を落とすことなく最低限の金銭負担で診療を完結するか、といったことに尽力しました。具体的に行ったことは、ER室へのエコーの導入、多職種でのシュミュレーション教育の開始、診療マニュアルの作成、などでした。導入から2週間の間に、心不全、外傷性血胸、骨折などの診断ができ、その有用性を伝えることができました。

また現地医師に招いて頂き、農村地域の無医村の訪問、地方病院での診療、手術見学へも赴きました。その医師は首都ダッカで大学教授を務めながら、休日には出身地であるその村で無償で診療を行い、必要時は近隣の病院で自ら手術も行う、といった活動を何年も続けておられました。都会でも僻地でも、「自分の属する地域にどうにか貢献したい」、「不十分かもしれないが、常に自身にできることを追求したい」という想いが具現化されており、非常に感銘を受けました。医療資源の乏しい地で働くことで、こちらが支援にいったにも関わらず、自分が医師としてどの様に過ごすべきか、を再度考える機会を得ることができました。このような機会を与えてくださった西尾教授はじめ関係者の皆様に深く感謝します。



外傷処置の指導 (中央が大野助教)



日本人支援チームと (左から3番目が大野助教)

国際交流センター長、副センター長からのメッセージ

MESSAGE

国際交流センターセンター長 嶋 緑倫 (医学部長)



COVID-19は本学の教育や国際交流事業にも大きな影響を与えました。昨年の5月からTeamsを主体としたWebシステムを立ち上げ、各教室や部門の先生方の協力のもとに、遠隔授業をいち早く実施することができました。学生の皆さんにも大きな負担をかけることになりましたが、今年度は反転授業やe-learningを取り入れるなど、より参加型の授業に進化させたいと考えています。残念ながら、昨年度の国際交流事業は実施できませんでしたが、ワクチン接種も始まり明るい兆しも見えてきています。海外リサクラを含めた国際交流事業が早く再開できる日を楽しみにしています。コロナ禍での経験の蓄積は終息してからきっと役にたつと思います。逆境をチャンスに変える精神で一緒にチャレンジしていきましょう。

国際交流センター副センター長 森 英一郎 (未来基礎医学准教授)



奈良医大では研究マインドの育成に力を入れております。1年生では「医学研究入門」を開講し、2年生では「リサーチ・クラークシップ(リサクラ)」の実習を行っております。2016年度からリサクラのプログラムが始まり、1期生が2021年3月に卒業していきました。卒業生の中には、リサクラ終了後も自主的に学内の研究室での研究活動を続け、学会発表や論文発表を行い、賞などを受賞するなど、活躍している方々もおられます。奈良医大では、学部学生の研究活動に対して、様々な支援体制を整えております。先輩方に続いて、最先端の研究活動に触れ、研究成果を世界に発信する学生生活を送ってみませんか。

先端医学研究支援機構だより

研究力向上支援センターからのお知らせ

1 重点研究進捗状況報告会を開催しました

本学では、将来像の重点研究2016推進計画に定める重点研究課題として、『国内外から多くの研究者が集まる拠点づくりを目的とした日本を世界を牽引する研究』『奈良県立医科大学教育改革2015で宣言する「良き医療人の育成」を実践していくための研究』を推進しています。

このたび1月21日・2月8日・3月16日に次の研究の進捗状況報告会を開催しました。

今年度は、教職員に新型コロナウイルス対策としてWeb配信による同時中継で実施しました。



血栓止血先端医学
辰巳公平 准教授

放射線医学(現放射線診断・IVR学)
田中利洋 准教授

教育開発センター
若月幸平 教育教授

「血栓止血の制御に関する研究」

血栓止血先端医学 准教授 辰巳 公平

「画像下での低侵襲医療に関する研究」

放射線医学 准教授 田中 利洋
(現放射線診断・IVR学)

「良き医療人育成に関する
研究・医療人のキャリアパスに関する研究」

教育開発センター 教育教授 若月 幸平

2 若きトップサイエンティストの挑戦(リサーチストーリー) vol3 を掲載しています

(本学ホームページ>研究力向上支援センター>若きトップサイエンティストの挑戦>vol3 松平崇先生(化学 助教))

化学 助教 松平 崇先生

このシリーズは、本学で国際的に活躍されている若手の研究者の方々にお話を伺い学内を始め広く学外にもご紹介したいと考えています。化学・高分子化学分野のトップクラスのジャーナルである【Biomacromolecules】(Impact Factor:6.092)に松平先生の論文が掲載されました。この論文は、同ジャーナルのCover Artにも採用されています。インタビューでは、論文の内容や、本研究を進められた経緯について、お話を伺いました。今後も定期的にインタビューをしていく予定です。ご期待ください。なお、この内容は、研究力向上支援センターのHPに掲載されていますのでご覧ください。



産学官連携推進センターからのお知らせ

産学官連携コーディネーター 中山 敏

4月1日付で産学官連携推進センター・(兼)MBT研究所に産学官連携コーディネーターとして着任しました。前職の電気メーカーでは機構や衛生デバイス、美容健康機器のR&Dに主に携わって参りましたが、ここでは初めての分野かつ違った立場でのチャレンジとなります。前職での関係先との連携の経験を生かしながら、皆様の研究の進展やMBT構想の具現化に向けて邁進するとともに、奈良県立医科大学の発展のお役に立てるように励む所存です。最初は不慣れでご迷惑をおかけすると思いますが、その時にご指導、ご鞭撻の程、どうぞよろしくお願い致します。

4月1日より納品検収センターの受付時間を変更しています

本学では公的研究費で購入された物品等の納品にあたっては、文部科学省が定めた「研究機関における公的研究費の管理・監査のガイドライン」に沿って、納品検収センターを経由し納品することとなっています。納品検収センターの検収印がない納品書では支払いが出来ませんので、ご注意ください。

このたび令和3年4月1日より、納品検収センターの受付時間を9:00～16:00(12:00～13:00は休憩)に変更しておりますので、お知らせします。

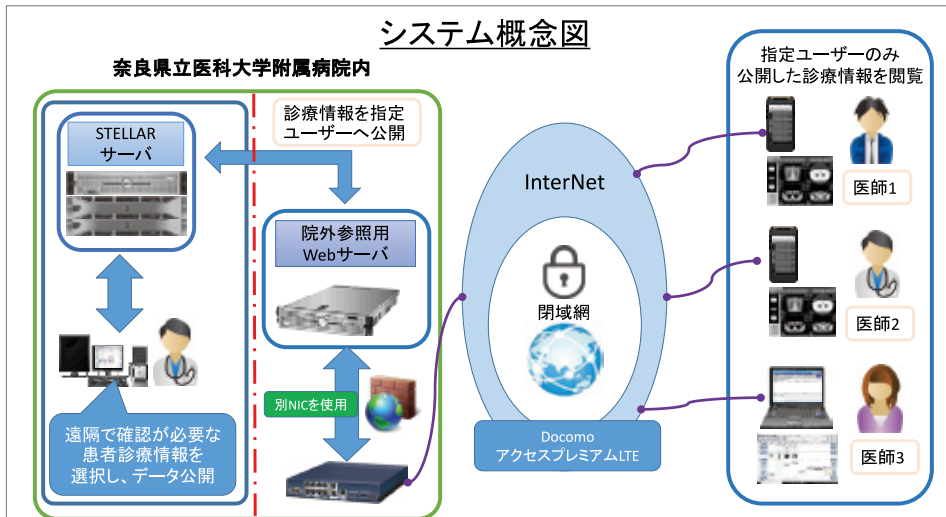
ご理解、ご協力の程よろしくお願い致します。

12.21 携帯端末による遠隔画像確認システムの利用スタート

医療情報部 部長 玉本 哲郎

令和元年5月に電子カルテシステムの更新を行いました。その更新時の新規対応の1つとして、主に救急患者の画像などの医療情報を院外にいる医師が確認できるシステム

の導入を検討していました。電子カルテシステムの本体とは別に、Vender Neutral Archive (VNA) (いわゆる 電子的なカルテ庫およびフィルム庫) を構築しました。今回、このVNA内に保存されているMRIやCT画像を院外にいる医師がiPhoneあるいはノートパソコンで情報セキュリティを担保した方法で確認し、チャット機能を用いて病院内外でリアルタイムに連絡を取れるシステムをアストロステージ社と共同開発しました。令和2年12月21日より稼働しています。まずは脳卒中センターから利用を開始しており、今後は高度救命救急センターでも利用していただく予定です。これにより、救急患者における迅速な対応と医師の働き方改革の一助になればと考えています。



2.4 JPI カンファレンススクエアで MBT 講演をしました

JPI カンファレンススクエア (東京都港区南麻布) において、MBT 研究所の梅田智広副所長が、「MBT (医学を基礎とするまちづくり) 構想」実現に向けた取組みとその成果について講演しました。

平均寿命の伸長と高齢化に伴い日本の医療費は増加し続けているなか、これら課題解決には情報提供方法の構築・健康志向への誘導・効率的な予防サービスの提供が求められています。そこで我々は、各種センサや IT を活かした「MBT パーソナル」を構築してきました。

今後も MBT 構想の実現に向けた取り組みについて積極的に展開を図っていきます。



MBT 研究所 梅田副所長 (右)

2.9 東大寺修二会や奈良ホテルでのコロナ感染対策を協議

本学と MBT コンソーシアムでは、様々なイベントでの新型コロナウイルス感染対策を行っています。1270 回目の東大寺修二会における MBT 研究所の笠原 敬病院教授 (感染症センター長) による感染対策の指導・助言の報告や、2月22日に奈良ホテルで開催する 28 種の新型コロナウイルス感染対策を採用した MBT コロナ克服キャンペーンの「模擬立食パーティー」について、詳細な打ち合わせを行いました。

また、MBT の研究成果である柿渋を用いた商品開発の状況報告もありました。

今後も MBT コンソーシアムと共同で、「3 感染ルート遮断」による、様々な状況での新たな新型コロナウイルス感染対策を全国に展開していきます。



MBT コロナ感染対策の討議の様子

2.22 奈良ホテルで新型コロナ感染を防ぐための模擬立食パーティーを開催しました

これまで、本学はMBTコンソーシアムと共同で、企業・学校・商店街・社寺等のイベントを対象としたコロナウイルス感染症対策相談を行ってきました。

その活動の中で生まれたコロナ禍の中において「安心して選んでいただけるホテル・レストランとは」という課題を追求するにあたり、奈良ホテルの協力を得て、MBT コロナ克服キャンペーンの一環として「感染を防ぐための模擬立食パーティー」を開催しました。

当日は、関西のホテル業界関係者のほか、奈良の観光関係者、旅行関係者、報道関係者、MBTコンソーシアム会員企業など、約60名が参加しました。

第1部では、会場内にて実施されているMBT 3感染ルート遮断（①接触②飛沫③エアロゾル）を基本とした28の感染対策を参加者に体験・実感していただきました。なかでもハーフミラーを設置した座席は、飛沫感染のリスクを抑えつつも談話を楽しめる方法の1つとして参加者から注目が集まりました。

また、研究展示コーナーでは、製薬会社との共同開発商品である柿渋含有飴の試食やMBTコンソーシアム参加企業のオゾン水装置による手指消毒・ATP装置による洗浄度測定の実演も行いました。

第2部は、細井理事長・学長（MBT研究所所長）進行のもと、第1部で実施した感染対策を1つ1つ検証し、参加者全員でその有効性や課題を議論する検討会を行いました。特にホテル関係者からは、感染対策を実施していく中での悩みどころや疑問

点などが話題にあがり、MBT 研究所 笠原病院教授（感染症センター長）が感染対策の思考プロセスなど詳細なアドバイスをを行いました。

今回の取り組みは、with コロナ時代における日常を取り戻すための新たな試みの1つとして、報道機関各社から新聞・テレビといった媒体を通じ全国へ発信がありました。また、MBTの監修による感染対策の知識や今回の取り組みをホテル業界・飲食業界の方々に広く役立てていただくことができるように、実施した感染対策の内容をYouTubeで動画公開しています。

YouTube視聴には、下記のURLまたは右のQRコードから
<https://youtu.be/ErGZAtCzyx0>



細井理事長・学長による3感染ルート遮断の提唱



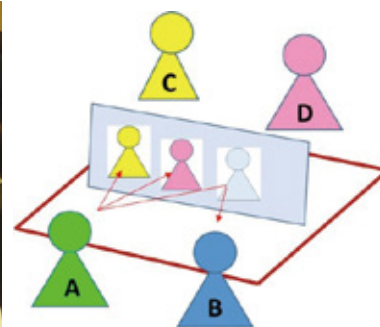
笠原感染症センター長による解説



ミラー越しの談話で飛沫感染を防止



対面席ではハーフミラーで互いの表情を確認



対人距離を明示した談話コーナー



研究成果の発表

2.15 TQM大会表彰式を行いました

附属病院においては、職員自らが日頃感じている具体的な課題や問題点について、主体的に課題解決に取り組むことで、職員の改善意識の向上を図り、さらに活動成果を病院の業務などに生かし医療・サービスの質を継続的に向上させていくことを目的として、平成27年度よりTQM活動(Total Quality Management(総合的質管理))を推進しており、その活動成果を発表する場として、毎年TQM大会を開催しております。今年度で6回目となる本大会は、新型コロナの影響もあり、初めてのWeb開催で行い、参加した全18チームに、各チーム趣向を凝らした活動成果を発表する動画を作成いただきました。どれもそれぞれのチームの特色が出た非常に興味深いものであり、その動画を見て、医療・教育質向上対策プロジェクトメンバーが審査を行い、各賞が決定され、2月15日に表彰式を行いました。表彰チームは以下のとおりです。

- 1位 パースセンター結愛(ゆめ) 看護部
- 2位 コロナ、とおしまへん! 医療サービス課
- 3位 IVR戦隊—IVR sentai— 中央放射線部
- 院長賞 プロジェクト「SCRUM(スクラム)」 高度救命救急センター
- プロジェクトリーダー賞 知恵子showちゃんねる 薬剤部



表彰式の様子



川口プロジェクトリーダー、吉川病院長とパースセンター結愛(ゆめ)のメンバー

2.28 臨床研究県民公開講座をハイブリッド形式で開催しました

臨床研究センターは、奈良県コンベンションセンター天平ホールにて、臨床研究県民公開講座「県民とともに創る未来への医療—新型コロナに立ち向かう—」を開催しました。

今回は、奈良県の「新たなMICE開催推進モデル事業」として、奈良県および奈良市の後援を受け、オンラインと会場とのハイブリッド形式により実施し、合計152名の参加がありました。また、当日は、会場内の新型コロナウイルス感染症対策として、検温・消毒薬の設置、席数の使用制限と席間隔の確保に加えて、MBTコンソーシアムの会員である(株)ドゥエルアソシエイツより光触媒抗菌空気清浄機の無償貸与を受け、会場内に6台設置しました。

笠原正登教授(臨床研究センター)から、新しい医療の創出についての話につき、笠原敬病院教授(感染症センター)からは、新型コロナウイルス感染症の「これまで」と「これから」について、矢野寿一教授(微生物感染症学)からは、感染対策の研究成果—オゾン・柿渋など—についての講演がありました。

この公開講座は、YouTubeで3月15日～31日までオンデマンドで配信されました。



感染症センター 笠原敬 病院教授



微生物感染症学 矢野寿一 教授



会場の様子

3.1 リサーチクラークシップ参加学生の筆頭著者論文が PLOS ONE に掲載されました

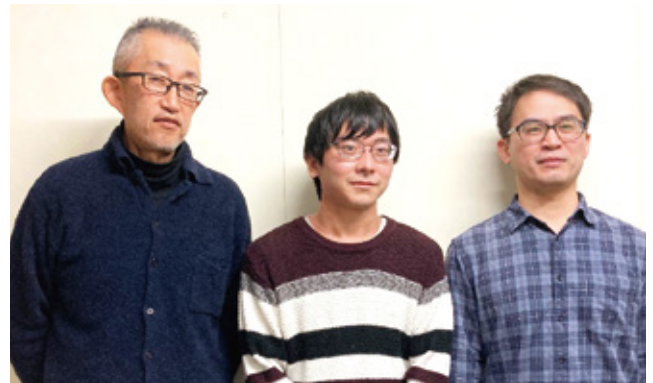
医学科 5 年 (解剖学第二) 西村 和也

この度、解剖学第二講座で研究させていただいた成果が米国のオンライン科学誌「PLOS ONE」に筆頭著者として掲載されました。リサーチクラ以前は基礎研究にあまり興味がありませんでしたが、解剖学第二講座でのリサーチクラで研究に興味を持ち、その後も医科学研究生として毎日研究室に通い、地道に研究を続け今回の論文発表に至ることができました。本研究は細胞内輸送に関わるタンパク質 SNX25 が炎症に関わる NF- κ B を制御しているという内容であり、実験から論文執筆に至るまで経験することが出来ました。ご指導いただきました和申先生、田中先生をはじめ、解剖学第二講座の先生方に厚く御礼申し上げます。

掲載論文

Nishimura K, Tanaka T, Takemura S, Tatsumi K and Wanaka A. SNX25 regulates proinflammatory cytokine expression via the NF- κ B signal in macrophages.

PLOS ONE. 2021 Mar 1;16 (3) : e0247840. doi: 10.1371/journal.pone.0247840.



左から和申教授、西村さん、田中講師

3.8 大和漢方医学薬学センター委員会を開催しました

大和漢方医学薬学センターは、本学における漢方医学薬学に関する教育・研究・診療活動の充実と県民の健康増進や地域の活性化を推進するため、平成 26 年 1 月に設置されました。

当センターでは、日本東洋医学会専門医・指導医である三谷和男特任教授を中心に漢方専門医を目指す医師との症例検討の実施・医学科学生への講義や漢方セミナーなどを開催しています。

委員会では、令和 2 年度の事業報告、令和 3 年度の事業計画等について検討しました。

医師・薬剤師・看護師・医療関係者の漢方セミナーもオンラインと講義形式のハイブリッドでの開催を予定しております。多くの方々のご参加をお待ちしております。



三谷特任教授



運営委員会の様子

2.25 2.25 3.9 コロナ感染対策オンライン勉強会にて講演しました

ユニバーサルエアデザイン京都が主催するオンライン勉強会にて MBT 研究所 笠原 敬病院教授 (感染症センター長) が講師として講演されました。

ユニバーサルエアデザイン京都は、京都にある株式会社片山工務店による「建築業関係者自らが感染対策の知識を身につけ、それを業務へと反映しよう」という呼びかけのもと全国の企業が集まり結成された団体です。

笠原病院教授は 1 回目の講演では奈良県内のコロナ感染患者数推移に対して奈良医大が行ってきた対応を時系列に沿って解説し、2 回目ではこれまでの企業相談で実施した感染対策事例の紹介やそれらの取り組みを通して学んだことを語られました。

どちらの回でも参加者からは多数の質問が飛び、終始熱心な姿勢がうかがえました。

今後も医学的知識を社会へと還元するための活動を継続して参ります。



寄せられた質問に回答する笠原病院教授

3.10

近畿大学を中心とした「ひと・まち・未来研究会」がMBTを訪問

「ひと・まち・未来研究会」のメンバーが奈良医大に来学し、MBT研究所を訪問されました。ひと・まち・未来研究会は、三星昭宏近畿大学名誉教授を代表とした近畿大学などの教員、堺市職員やまちづくりに関わる民間企業からの十数名で構成され、近大医学部移転を見据えた泉北ニュータウンにおいて、健康づくりを中心に日々の暮らしを支える仕組みづくりの担い手の育成とICTの活用、住まい、都市空間づくりなど、ソフトとハードが一体となった健康未来都市構想を研究する団体です。

本学出身の近畿大学医学部 伊木教授もオブザーバーとして参加され、午前中はMBTの取り組みや、本学と橿原市、民間企業が取り組む国土交通省の事業などを紹介し、活発な議論が展開されました。午後からは、新キャンパス予定地や今井町の本学ゲストハウスや橿原市と本学との共同事業の現場を訪問しました。

近畿大学医学部の3年後の泉北ニュータウンへの移転に合わせて行、大学・行政・地域が連携したまちづくりにとって、MBTの取り組みが参考になれば幸いです。



今井まちなみ交流センター華豊にて

3.13

MBT ウエルシア薬局 健康ステーションを開催しました

ウエルシア薬局 橿原市中曾司店「ウエルカフェ」にてMBT研究所が健康ステーションを開催しました。

MBT 研究所 梅田副所長と研究所スタッフが、参加者の皆様に肌カメラなど様々な機器で身体や肌の状態を測定し、運動意識の改善・向上のアドバイス等を提供しました。

参加者からは、以前の結果と比較しながら健康アドバイスを受けることができるといいという意見を多くいただきました。

MBTは今後も積極的に展開を図っていきたいと思います。



肌チェックをする梅田副所長



健康ステーション全体の様子

3.13

超音波ガイド下手術・手技研究会を立ち上げました

本学は、超音波ガイド下手術に関して世界において先駆的な取り組みを行っています。

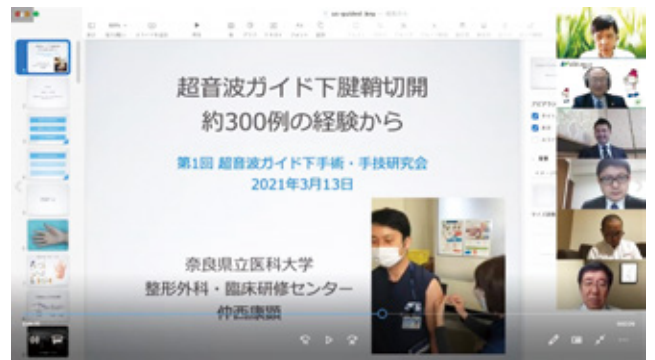
近年、超音波診断装置は、その性能が向上したことにより、利用用途が従来の診断領域から治療領域へと拡大しつつあり、新たな低侵襲治療への適用が期待されています。既に一部では四肢伝達麻酔が超音波ガイド下で実施されるようになっていますが、一方で、超音波ガイド下で利用されることを想定した器具の開発がほとんど進展をみていません。

本学では「超音波ガイド下手術」の実現・普及を世界に先駆けて行うため、MBT 連携企業である医療機器メーカーの奈良精工株式会社及び工作機械専門メーカーのDMG 森精機株式会社とタッグを組み「超音波ガイド下手術・手技研究会」を立ち上げました。

3月13日の第1回研究会は、細井理事長・学長 (MBT 研究所所長) の言葉から始まり「超音波ガイド下足関節外側靭帯修復術の可能性」と題して、服部惣一先生 (亀田総合病院 スポー

ツ医学科) や「超音波ガイド下腱鞘切開・約300例の経験から」と題して仲西康顕先生 (本学整形外科、臨床研修センター、超音波ガイド下手術外科マスター) の講演がありました。

最後に整形外科の田中康仁教授の締めくくりまで、参加者は、新医療機器開発の可能性等について議論しました。



Webによる研究会の様子

3.17

今井町における健康教室が橿原市の第4次総合計画に紹介されました

MBT 研究所と橿原市今井町との連携における地域貢献の一環で開催している健康教室は、今月よりスマホ等を用いて自宅からでも参加できるように、オンラインにも対応しました。子育て世帯や独居高齢者など、外出が難しい住民でも容易に参加できる仕組みができたことで、オンライン参加者からも、体操を指導する理学療法士の声や動作もクリアで、参加者の姿も見えて、その場にいた場合とほぼ同じ感覚で参加することができ、忙しいときでも自宅から参加できて、とても便利だったとの意見がありました。

なお、健康教室の取り組みは、橿原市の第4次総合計画にも紹介され、MBT 研究所と橿原市の連携による取り組みが、市域全体への波及・展開が期待されます。



健康体操に取り組む参加者

3.18

関西経済同友会にてMBT コロナ克服キャンペーンの講演を行いました

大阪市北区中之島にある関西経済同友会会議室において「MBT (Medicine-based Town) コロナ克服キャンペーン～感染制御に向けた研究、診断、治療、啓蒙・個別企業相談～」と題して、本学 MBT 研究所長でもある細井裕司理事長・学長と MBT 研究所 笠原敬病院教授 (感染症センター長) が講演を行いました。

この講演については、関西経済同友会内の「若手の会」のメンバーが企画し、新型コロナウイルス感染症拡大抑制について、何に注意し、どのように行動していくべきかを中心に若手の経営者の皆様に伝授するものでした。オンラインと会場でのハイブリッド形式でしたが、経営者の方々からの質問もあり画面を通しての熱い想いを感じたものとなりました。



細井理事長・学長



笠原感染症センター長

3.19

産学連携の奈良県コーディネーター会議に参加しました

奈良県産業振興総合センター主催で、奈良県コーディネーター会議が開催されています。この会議は、県内の産学連携事業や地域産業振興を推進するため、奈良医大のほか、奈良工業高等専門学校、関西文化学術研究都市推進機構等の産学連携コーディネーターが参加し、意見交換を行っています。

本学は、MBT の取り組みの一環である感染を防ぐための模擬立食パーティーの開催や東大寺修二会など各種イベントでの感染対策指導、柿渋を用いた企業との共同開発商品など、奈良医大と MBT コンソーシアムの新型コロナ対策の様々な取り組みの紹介を行いました。

MBT は、他機関からの意見や情報を相互に活用し、県内の産学連携を活性化していきたいと思えます。



県内の産学連携コーディネーター

3.23

積み上げた実践的知識を届ける方法を議論

本学と MBT コンソーシアムは、コロナ禍による経済活動の停滞を最小限に留めるため、研究成果を基にした商品の共同開発、メール等でのコロナ対策相談や企業への訪問指導、さらには感染対策を実践したイベントの開催といった活動に積極的に取り組んでいます。

それらの活動の成果報告を受け、YouTube で公開中の感染対策の取り組み動画や発行予定の感染対策事例集の広報に関して、これまで積み上げてきた実践的知識をより多くの方々知ってもらい、活用していただくことを第一とした話し合いが展開されました。

これからも社会的な課題の解決に医学的側面から向き合い続けていくとともに、そこから得られた知見の発信に力を入れていきます。



感染対策知識の効果的な発信方法を議論

3.26 協定大学共同研究助成事業成果報告会を開催しました

協定大学である奈良先端科学技術大学院大学との連携活性化を目的に、令和元年度より共同で共同研究助成事業を行っています。

令和2年度の採択課題について、嶋医学部長挨拶の後、細川研究教授司会のもとで、下記のとおり助成事業終了による成果報告会を開催しました。



挨拶する嶋医学部長



司会進行の細川研究教授

「新規行動解析システムによる幼少期生育環境が 脳および行動に及ぼす影響と責任脳領域の検討」

本学代表者：解剖学第一 教授 西 真弓

奈良先端大共同研究者：数理情報学研究室 教授 池田 和司



解剖学第一 西教授



放射線医学 西尾福講師
(現 放射線診断・IVR 学)

「ロボット化された生検保持器と CT の連携による IVR ロボット」

本学代表者：放射線医学 講師 西尾福 英之

奈良先端大共同研究者：ロボティクス研究室 准教授 高松 淳



奈良先端大 池田教授



奈良先端大 高松准教授

当日は、新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、Web を通じての発表となりましたが、成果報告会では、奈良医大と奈良先端大の先生方の研究発表の場面展開の連携や、質疑応答もスムーズに行うことができ、Web 形式での開催が浸透してきたように感じました。

また、報告会后、協定大学共同研究助成事業の選考委員会を行い、令和3年度の採択は、下記の2件に決定いたしました。

「IoT デバイスを用いた応用動作解析とリハビリテーションへの応用」

本学代表者：リハビリテーション科

講師 眞野 智生

奈良先端大共同研究者：ユビキタスコンピューティングシステム研究室

教授 安本 慶一

「心理課題下の視線運動解析を中心とする統合失調症と自閉スペクトラム症への医工連携によるバイオマーカー創発」

本学代表者：精神医学

講師 紀本 創兵

奈良先端大共同研究者：知能コミュニケーション研究室

教授 中村 哲

続く連携活性化委員会では、

本年度、大学院生の連携に関する覚書の締結や、共同研究・公的研究費への応募等、研究者同士の連携が年々増えてきている実績が話し合われました。

今後も、交流会の開催や共同研究助成事業等を展開し、本学と奈良先端科学技術大学院大学との研究が活発になるよう、連携活性化に向けた活動を行いますので、ご参加・ご応募をお待ちしております。



連携活性化委員会・選考委員会の様子

3.29

スーパーシティ構想実現に向けて講演を行いました

MBT 研究所では、少子高齢社会を快適に暮らすことができる付加価値の高いまちづくりの実現を目指しています。

内閣府では、AI やビッグデータなど先端技術を活用し、未来の生活を先行実現する「スーパーシティ構想」を推進しており、MBT でも、各地でスーパーシティ構想に係る講演等を行っています。今回は、愛知県と常滑市が目指す「あいち・とこなめスーパーシティ構想」推進に伴い愛知県常滑市商工会議所で MBT 研究所の梅田副所長が講演を行いました。

梅田副所長は MBT の研究成果の一つである IoT を活用したバイタル測定ロボットや電化製品の電力データ解析による高齢者の行動分析手法等の紹介を行い、参加していた自治体や老人ホーム経営者の方々はかなり熱心に聞き入っておられました。

MBT は、今後も、推進されるスーパーシティ構想に積極的に関わっていききたいと思います。



梅田所長講演の様子

3.30

株式会社三笠様より靴下の贈呈がありました

MBT コンソーシアム会員企業である株式会社三笠様より、新型コロナウイルスの治療の最前線に立ち日々感染リスクを負いながら尽力している本学教職員へ敬意と感謝を込めて、靴下の贈呈をいただきました。この製品は同社の奈良工場（奈良県葛城市）で作られたものです。

贈呈式において、株式会社三笠代表取締役社長 甘利茂伸様から、「MBT コンソーシアム理念に賛同しその社会貢献の理念に共感して参画しております。これからも「MBT コロナ克服キャンペーン」はじめ多くの MBT 活動を支援すると共に奈良医大の皆さまを応援します。私どもの奈良工場で心を込めて作った靴下をぜひご利用ください。」とメッセージをいただきました。



贈呈式の様子

1.13～
3.31

研究不正防止研修会を開催しました

研究者等に求められる倫理規範の修得を目的に、オンラインで研究不正防止研修会を開催しました。ロバスト・ジャパン株式会社 中安豪氏を講師に、時代と共に変化する研究コンプライアンスのあり方について、様々な事例を交えながらお話いただきました。

この研修会は、「研究活動における不正行為への対応等に関するガイドライン（平成 26 年 8 月 26 日文科科学大臣決定）」及び「公立大学法人奈良県立医科大学における研究活動上の不正行為の防止等に関する規程」に基づき、毎年開催しています。



研修会の様子

9.26 第229回日本内科学会近畿地方会で若手奨励賞（優秀演題賞）を受賞しました

脳神経内科学 後期研修医 出口 晶子

2020年9月26日、Web開催となった第229回日本内科学会近畿地方会における若手奨励賞セッション（口演発表）で、本学脳神経内科学講座の出口晶子後期研修医が、演題「舞蹈運動を契機に診断に至りステロイドが奏効した抗リン脂質抗体症候群の1例」を発表し、優秀演題賞を受賞しました。抗リン脂質抗体症候群における舞蹈運動をはじめとする神経症状発症の機序を考慮する上で興味ある症例検討でした。今後の内科学診療の大きな励みとなり、さらに臨床力向上に活かしてくれるものと考えます。



10.14 第4回バイオインダストリー大賞受賞

研究業績：「血液凝固第VIII因子機能を代替するバイスペシフィック抗体医薬の創出による血友病Aの治療革命」

令和2年10月14日 BioJapan 2020（パシフィコ横浜）において、本学小児科学教室（吉岡 章名誉教授 嶋 緑倫医学部長（前教授）、野上恵嗣准教授（現教授））と中外製薬株式会社（服部有宏研究本部シニアフェロー、北沢剛久創薬薬理研究部長、井川智之 Chugai Pharmabody Research CEO）の研究グループが第4回バイオインダストリー大賞を受賞しました。

この研究グループは、創薬研究から臨床開発までを一貫して産学連携で進め、抗体医薬生産技術を確認しました。この成果は、世界に先駆けた日本発の創薬であり、今後、新たな機能性抗体医薬の創出など国内外のバイオ産業の発展に大きく寄与するものと期待され、バイオインダストリー大賞にもっとも相応しいと高く評価されたものです。

【研究成果の概要】

研究成果である製剤（一般名 エミシズマブ emicizumab、商品名 ヘムライブラ皮下注）は、血液凝固の活性型第IX因子および第X因子を認識するバイスペシフィック抗体製剤で、活性型第VIII因子の凝固活性機能を有するという全く新たな概念に基づく血友病A治療製剤です（Nature Medicine（2012）他）。

エミシズマブは、中外製薬株式会社と奈良県立医科大学小児科学教室との間で行われた開発段階から、前臨床、臨床各段階にわたる15年余の産学共同プロジェクトの成果として生み出され、その第1/2相臨床試験が奈良県立医科大学の主導の下に世界に先駆けて我が国で実施され、New England Journal of Medicine（2016）に掲載されました。

エミシズマブは、従来の血友病A治療に関する克服すべき様々な問題点を一気に解決し、世界中の血友病A患者さんのQOLを劇的に改善～正常化するポテンシャルを持っています。

第4回バイオインダストリー大賞ニュースリリース
https://www.jba.or.jp/jba/osirase/4_2.php

（バイオインダストリー大賞とは…）

一般財団法人バイオインダストリー協会が主催する表彰制度で、「最先端の研究が世界を創るバイオテクノロジーの新時代」を掲げ、バイオサイエンス、バイオテクノロジー及びバイオインダストリーの分野で、その発展に大きく貢献し、または、今後の発展に大きく貢献すると期待される顕著な業績を表彰するものです。

過去の実績者には、ノーベル賞受賞者の本庶佑氏を含む著名な研究者が名前を連ねています。



（一財）バイオインダストリー協会提供

12.12

第230回日本内科学会近畿地方会で 若手奨励賞(優秀演題賞)を受賞しました

脳神経内科学 後期研修医 山岡 美奈子

2020年12月12日、Web開催となった第230回日本内科学会近畿地方会における若手奨励賞セッション(口演発表)で、本学脳神経内科学講座の山岡美奈子後期研修医が、演題「聴神経鞘腫に対する γ ナイフ後に水頭症を来した1例」を発表し、優秀演題賞を受賞しました。当科と本学脳神経外科との共同研究による成果であり、聴神経鞘腫後の髄液循環や水頭症発症の病態機序を考慮する上で貴重な症例検討でした。今後の内科学診療および研究の大きな励みとなり、さらに研究の発展に貢献してくれるものと考えます。



12.23

第108回日本泌尿器科学会総会 総会賞ポスター部門(排尿障害:臨床)

泌尿器科学 講師 鳥本 一匡

間質性膀胱炎・膀胱痛症候群(IC/BPS)は未だ病態が明らかではなく、診断および治療が難しい疾患です。これまでバイオマーカーの研究が行われてきましたが、臨床応用に至ったものはありません。我々は網羅的解析によりバイオマーカーの候補を見つけ出し、前向きに有用性を検証しました。また、奈良医大発の知的財産を保護するため、国内外の特許も出願しました。この研究がIC/BPS診療の進展に寄与し、慢性的な下部尿路症状に悩む患者さんに元気になっていただけるよう頑張っ



1.22

第42回日本光医学・光生物学会に おいて学会賞を受賞しました

組換えDNA実験施設 博士研究員 森 俊雄
(元RI実験施設 研究教授)

第42回日本光医学・光生物学会(2021年1月22日からWeb開催)にて学会賞を受賞し、受賞講演「DNA損傷特異抗体で道を拓く」を行いました。1)モノクローナル抗体を用いた3種類の紫外線主要DNA損傷検出系が世界標準技術に成長したこと、2)DNA修復欠損遺伝病である色素性乾皮症A群(XP-A)モデルマウスの脳内に酸化DNA損傷(サイクロプリン)が経時的に過剰蓄積することを発見し、40年来のXP神経障害発症仮説を実証したこと、3)DNA損傷抗体を損傷修復亢進薬に進化させたことについて発表しました。本学において長く研究を続けさせていただき心より感謝申し上げます。



1.28

国際ソロプチミスト奈良—あすか 女性研究者賞を受賞しました

消化器・総合外科学 助教 長井 美奈子

ソロプチミスト日本財団では、様々な分野で将来性のある研究をしている有能な女性を支援し、さらなる女性の活躍への足掛かりとなる機会を与えることを目的に女性研究者賞を授与されています。

この度、女性研究者・医師支援センターからの推薦により、本学消化器・総合外科学講座の長井美奈子助教が「膵癌におけるG-CSFR発現の臨床的意義及び抗癌治療感受性との関係について」という研究テーマで国際ソロプチミスト奈良—あすか女性研究者賞を受賞されました。

国際ソロプチミスト奈良—あすかの高田邦子会長からは、「女性医師では数少ない肝胆膵領域の外科医として、今後の更なる活躍を期待したい。ぜひ頑張ってください。」と温かいエールが送られました。女性研究者・医師支援センターでは今後も優秀な女性研究者の活躍を応援していきたいと思



左より 嶋センター長、長井助教、須崎マネージャー

Winner Report

2.2

第7回アジアオセアニア臨床神経生理学会で優秀演題賞を受賞しました

脳神経内科学 大学院生 井口 直彦

2021年1月30日～2月2日にWeb開催されました第7回アジアオセアニア臨床神経生理学会で、当科大学院生の井口直彦先生が、「Multiple Novel Biomarkers For the Evaluation of Respiratory Function in ALS」を発表し、見事優秀演題賞 (E-poster) を受賞しました。ALS患者における呼吸機能評価のための新たなバイオマーカー開発に関する内容で、新規性の高い研究でした。今後のさらなる基礎研究および臨床研究の発展に期待しています。



3.3

令和2年度TBL Best Teacher表彰式を行いました

本学では、双方向性授業の導入のための教育手法として以前よりTBL (Team Based Learning) を導入してきました。令和2年度に行われた基礎医学Ⅰ (医学科2年生)、基礎医学Ⅱ (医学科3年生)、臨床医学 (医学科5年生) におけるTBLの学生アンケートにて「一番興味を持ったTBL」に選ばれた担当教員がBest Teacherとして表彰されました。

基礎医学Ⅰ TBL Best Teacher 第二生理学 講師 坂野 公彦
 基礎医学Ⅱ TBL Best Teacher 発生・再生医学 教授 栗本 一基
 臨床医学 TBL Best Teacher 循環器内科学 助教 中川 仁



左から中川助教、若月教育教授、細井学長、栗本教授、坂野講師

3.3

令和2年度FD活動表彰式を行いました

令和2年度は全6回のFD (Faculty Development) 活動が開催されました。令和2年度FD活動の表彰については、医学教育フォーラム (テーマ：これからの医学教育の方向性) において提出されたレポート (テーマ：本学における医学教育の課題) により、本学にとって有意義であり、非常に充実した意見を発表いただいた方を対象といたしました。結果、教養教育：松平崇助教 (化学) 基礎医学：山内晶世助教 (生化学) 臨床医学：紀本創兵講師 (精神医学) が表彰されました。



松平助教

山内助教

紀本講師



FD活動の様子

学報編集委員会からのお知らせ

✎ 寄稿記事募集案内

「学報」では、奈良県立医科大学や附属病院に関すること、お知らせ等を掲載するため、これらに関連する記事を広く募集しております。

掲載を希望する記事がある場合は内線2206までお問い合わせください。

なお「学報」は年4回発行しており、本学教職員・学生のみならず本学同窓会会員や関連大学・病院等にも配布しております。



令和2年度 学位授与の状況

博士(医学)

次の101名に博士(医学)の学位が授与されました。
(甲は「主科目」を、乙は「所属」を表しています。)

学位授与日 令和2年6月30日(火) 13名

(甲)	鴨門 大輔	循環器病態制御医学
	松岡 龍太	脳神経機能制御医学
	古市 康子	発達・成育医学
	立元 将太	画像診断・低侵襲治療学
	南口 貴世介	画像診断・低侵襲治療学
	西川 武	病理診断学
(乙)	中村 孝人	呼吸器内科学
	洲尾 昌伍	消化器・総合外科学
	玉置 亮	脳神経外科学
	堀内 薫	脳神経外科学
	岩越 真一	放射線医学
	日高 輝之	放射線医学
	小川 吉彦	感染症センター

学位授与日 令和2年9月30日(水) 19名

(甲)	田井 義彬	疫学
	古川 政統	消化器病態・代謝機能制御医学
	井上 大典	運動器再建医学
	田中 誠人	運動器再建医学
	横田 尚弘	耳鼻咽喉・頭頸部機能制御医学
(乙)	藤谷 信将	放射線腫瘍学
	森本 勝彦	腎臓内科学
	澤田 保彦	消化器内科学
	石岡 興平	消化器・総合外科学
	中村 広太	消化器・総合外科学
	福留 賢二	脳神経外科学
	田村 大和	胸部・心臓血管外科学
	廣瀬 友亮	胸部・心臓血管外科学
	荒木 正史	整形外科学
	藤本 佳克	産婦人科学
	松浦 広樹	精神医学
	矢田 憲孝	総合医療学
	上田 順宏	口腔外科学
	小川 拓	感染症センター

学位授与日 令和2年12月24日(木) 23名

(甲)	鈴木 大介	運動器再建医学
	森田 成紀	運動器再建医学
	森田 修威	運動器再建医学
	澳 昂佑	スポーツ医学
	長谷川 真理	発達・成育医学
	岡崎 康輔	精神医学行動神経科学
	高橋 誠人	精神医学行動神経科学
(乙)	喜多 揚子	循環器内科学
	池田 真徳	脳神経内科学
	江浦 信之	脳神経内科学
	國重 智裕	消化器・総合外科学
	中川 顕志	消化器・総合外科学
	木次 将史	脳神経外科学
	高村 慶旭	脳神経外科学
	横山 昇平	脳神経外科学
	早田 義宏	胸部・心臓血管外科学
	伊集院 信夫	眼科学
	矢追 博章	小児科学
	相原 加苗	精神医学
	長濱 泉美	精神医学
	蓮川 昭仁	耳鼻咽喉・頭頸部外科学
	中上 佳寿彦	口腔外科学
	畠山 陽子	病理診断学

学位授与日 令和3年3月15日(月) 46名

(甲)	松林 成也	相分離生物学
	角田 尚紀	微生物学
	平位 暢康	微生物学
	堀内 沙央里	微生物学
	西村 和樹	応用医学・医療学
	金岡 幸嗣朗	循環器病態制御医学
	西本 雅俊	腎臓病態制御医学
	小堤 隆広	消化器病態・代謝機能制御医学
	賀屋 大介	消化器病態・代謝機能制御医学
	北川 洸	消化器病態・代謝機能制御医学
	辻 裕樹	消化器病態・代謝機能制御医学
	藤永 幸久	消化器病態・代謝機能制御医学
	森崎 雄大	脳神経機能制御医学
	岡村 建祐	運動器再建医学
	唄 大輔	運動器再建医学
	長谷川 英雄	運動器再建医学
	水薺 貴満	運動器再建医学
	山谷 裕哉	運動器再建医学
	山本 雄介	運動器再建医学
	河原 直紀	女性生殖器病態制御医学
	大西 智子	発達・成育医学
	下西 成人	発達・成育医学
	中島 由翔	発達・成育医学
	伊丹 祥隆	泌尿器病態機能制御医学
	堀中 昭良	耳鼻咽喉・頭頸部機能制御医学
	田口 秀彦	画像診断・低侵襲治療学
	仲川 雅人	口腔・顎顔面機能制御医学
	伊藤 宗一郎	口腔・顎顔面機能制御医学
(乙)	伊丹 弘恵	病理診断学
	守川 義信	循環器内科学
	切畑屋 友希	消化器・総合外科学
	中村 保幸	消化器・総合外科学
	福岡 晃平	消化器・総合外科学
	松尾 泰子	消化器・総合外科学
	横谷 倫世	消化器・総合外科学
	登 希星	整形外科学
	長安 実加	産婦人科学
	洪 基朝	精神医学
	永野 龍司	精神医学
	則本 和伸	精神医学
	廣田 直也	精神医学
	山内 孝之	精神医学
	辰巳 佳弘	泌尿器科学
	吉川 元清	泌尿器科学
	芳賀 真代	放射線医学
	米川 真輔	感染症センター

奈良県立医科大学大学院博士課程研究奨励賞

甲の学位論文申請者のうち主科目指導教員が推薦した者の中から
医学の研究に最も優れた論文の申請者
松林 成也 相分離生物学

修士(医科学)

次の7名に修士(医科学)の学位が授与されました。

坂地 一朗	臨床実証医学
中谷 友哉	公衆衛生学
額賀 翔太	分子腫瘍病理学
藤岡 学	運動器再建医学
藤村 茂和	運動器再建医学
三浦 晃裕	循環器病態制御医学
宮林 知誉	臨床神経モニター学

修士(看護学)

次の8名に修士(看護学)の学位が授与されました。

矢野 真彩	看護学コース論文コース(在宅看護学)
山崎 愛	看護学コース論文コース(女性健康・助産学)
古角 美保子	看護学コース論文コース(高齢者看護学)
中谷 仁美	看護学コース高度実践コース(周産期看護学)
杉岡 亜美	助産学実践コース(女性健康・助産学)
鈴木 里穂	助産学実践コース(女性健康・助産学)
附田 紗英	助産学実践コース(女性健康・助産学)
野中 優希	助産学実践コース(女性健康・助産学)

公開講座情報

第3回わい和いNARA在宅サポート研究会 研究発表会

開催日時：令和3年6月5日(土) 10:00～15:30
方法：オンライン (ZoomによるLIVE配信)
概要：「自分が決める生き方 終い方
 ～もしものことを大切な人と話しあえていますか～」
 講演、シンポジウム、研究発表、事例検討
講演者：橋口智子 (奈良県立医科大学附属病院看護部長)
 木曾江津子 (介護センターとらいあんぐる取締役)
 武田以知郎 (明日香村国民健康保険診療所管理者・所長)
 池之畑直子 (奈良県看護協会立橿原訪問看護ステーション管理者)
 小出久美子 (遺族会「飛鳥の会」代表) 他
備考：事前申込必要 参加無料
問合せ先：わい和いNARA在宅サポート研究会事務局
 TEL 0744-22-3051 (内線 2750, 2776)

肝がん撲滅市民公開講座

開催日時：7月3日(土) 15:00～17:00
会場：奈良県橿原文化会館 小ホール
概要：肝臓についてスペシャリストによる最新情報など
備考：事前申込不要 参加無料
問合せ先：奈良県立医科大学 消化器内科学講座
 TEL 0744-22-3051 (内線：3415)
 E-mail 3naika@narmed-u.ac.jp

令和3年度入試結果

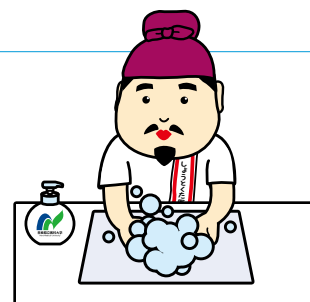
		募集人員	志願者数 (A)	受験者数	合格者数 (B)	追加合格者数 (Bの内数)	入学者数	志願倍率 (A/B)	前年度倍率
医学科	推薦 (緊急医師確保)	13	75	72	13	0	13	5.8	9.5
	推薦 (地域枠)	25	143	140	25	0	25	5.7	6.0
	前期	22	153	123	22	0	22	7.0	7.4
	後期	53	888	271	67	14	53	13.3	15.1
	編入学 (研究医枠)	1	4	4	1	0	1	4.0	4.0
	小計	114	1,263	610	128	14	114	9.9	10.5
看護学科	推薦 (地域枠)	35	88	88	35	0	35	2.5	1.9
	前期 (一般枠)	40	105	102	40	0	40	2.6	2.3
	前期 (地域枠)	10	40	38	10	0	10	4.0	4.4
	小計	85	233	228	85	0	85	2.7	2.4
医学部	合計	199	1,496	838	213	14	199	7.0	6.8

編集後記

皆様からご協力いただき第76号学报を発行することができました。ご協力・ご支援いただいたみなさまに深く感謝申し上げます。

新年度に入り、いかがお過ごしでしょうか。新人の方、異動された方も、新しい職場に慣れた頃でしょうか。

新型コロナは第4波が到来しました。感染対策を徹底し、体調管理にお気をつけください。



未来への飛躍基金だより

平素より「未来への飛躍」基金に対しご理解とご協力を賜り、心よりお礼申し上げます。

今号は、寄附申込状況のご報告と、ふるさと納税制度を活用した寄附の払込についてご案内させていただきます。

1つ目は寄附申込状況についてです。2020年度は合計**399件、81,313,218円**（2021年3月31日現在）の寄附申込をいただきました。皆様からのご寄附は学生の修学環境の向上や研究のさらなる飛躍のために活用させていただいております。寄附をしていただいた皆様の期待に沿えるよう努めて参りますので、今後も引き続きご協力を賜りますよう、よろしくお願いたします。

2つ目はふるさと納税制度を活用した寄附の払込についてです。2020年度より寄附金の払込方法は、お申込み時に「払込書」「クレジットカード」「コンビニ納付」「インターネットバンキング」の4種類から選んで頂くことができるようになりました。新しく加わった「コンビニ納付」「インターネットバンキング」について、金額の制限や対応銀行が限られますので、右図をご参照ください。

ふるさと納税制度を活用した寄附の払込について

払込方法	払込手続	備考
払込書	県から郵送される所定の払込書で払込	
クレジットカード	インターネットで払込手続き	申込書にメールアドレスの記入が必須
コンビニ納付	インターネットで手続き後、コンビニで払込 ※ 5万円未満の場合のみ選択可能	申込書にメールアドレスの記入が必須
インターネットバンキング	インターネットで手続き後、各ネットバンキングにて払込 ※ pay-easy 対応銀行でのみ払込可能	申込書にメールアドレスの記入が必須

お知らせ

●寄附者銘板を更新しました。

附属病院D棟1階北側に現在設置しております寄附者銘板を、更新いたしました。

奈良県立医科大学総務課基金推進係 TEL：0744-23-9973（直通） E-mail：hiyakukikin@narmed-u.ac.jp

The donation person name

寄附者ご芳名

「未来への飛躍基金」にご協力いただきありがとうございました

基金創設以来、令和3年3月までに累計3,313件のご寄附を申出ていただいております。

なお、今号では、令和3年1月～令和3年3月にお申し込みいただいた方のご芳名を掲載させていただきます。

【個人】

◆100万円以上

國分 清和 様 平野 貞治 様 柘田 忠蔵 様

◆30万円以上100万円未満

笠原 正登 様 田村 猛夏 様 牧浦 修 様
掲載を希望されないご寄附者様 2名

◆10万円以上30万円未満

井上 進敬 様 田中 末子 様 土岐 美智 様
中田 荷葉 様 山田千賀子 様
掲載を希望されないご寄附者様 2名

◆10万円未満

田中美千子 様 村上 真也 様
掲載を希望されないご寄附者様 7名

◆金額の公表を希望されないご寄附者様

重久 節子 様 熨斗 利光 様

【法人・企業】

◆30万円以上100万円未満

公立大学法人奈良県立医科大学労働組合 様
掲載を希望されないご寄附者様 1法人

◆10万円未満

掲載を希望されないご寄附者様 1法人

ご寄附のお申し込みをいただいた方のご芳名については、本学「未来への飛躍」基金HP (<https://www.narmed-u.ac.jp/~hiyakukikin/>) に掲載しております。



Media Listing Information

新聞・雑誌・テレビ等マスコミの取材、テレビ出演、記事を掲載された教職員・学生を紹介します。

日付	媒体	対象者	掲載概要
2021年 1月6日	読売新聞	公衆衛生学 教授 今村 知明	緊急事態宣言の感染拡大防止効果についてコメント
1月13日	朝日新聞デジタルWeb (有料会員閲覧可)	公衆衛生学 教授 今村 知明	日本のコロナ医療は「崩壊の入り口」 忍び寄る危険レベル
1月15日	週刊現代	微生物感染症学 教授 矢野 寿一	「お茶でコロナが消える」奈良県立医大論文、たった1分で99%が消滅 驚きの研究をどう考えるか
1月18日	NHK 奈良	感染症センター センター長 笠原 敬	東大寺修二会を前に感染対策を学ぶ研修会が開かれた
1月18日 ～3月8日	日本経済新聞Web 他9件	微生物感染症学 教授 矢野 寿一	空気清浄機技術、コロナ不活化確認 ワイエイシイなど新型コロナウイルス不活化試験の概要
1月23日	奈良新聞	感染症センター 理事長・学長 細井 裕司 センター長 笠原 敬	お水取りの感染対策について東大寺別当とウェブ座談会
1月24日	NHK総合 NHKスペシャル 「わたしたちの“目”が危ない」	眼科学 教授 緒方奈保子	眼科学講座と疫学・予防医学講座の共同研究の内容を紹介
1月28日	NHK奈良 「ならナビ」	感染症センター センター長 笠原 敬	奈良餅飯殿センター街でコロナ対策の助言
2月1日	時事通信社 時事ドットコム	公衆衛生学 教授 今村 知明	新型コロナ感染症による病床逼迫についてコメント
2月10日	毎日新聞	細井 裕司	奈良ホテルにおいて「模擬立食パーティー」開催
2月20日	NHK出版 「きょうの健康」	皮膚科学 教授 浅田 秀夫	まぶたのかゆみについて解説
2月22日	毎日新聞Web		
2月23日	Yahoo!ニュース NHK奈良 読売テレビ 「ten」 日本テレビ 「NNNストレイトニュース」	理事長・学長 細井 裕司	奈良ホテルにおいて「模擬立食パーティー」開催
2月25日	NHK BSプレミアム 「ヒューマニエンス 40億年のたくらみ」	化学 教授 酒井 宏水	人工赤血球の内容を紹介
3月4日	NHK総合「あさイチ」	眼科学 教授 緒方奈保子	眼科学講座と疫学・予防医学講座の共同研究の内容を紹介
3月4日	WEDGE Infinity	人事課 係長 岡山 弘美	障がい者と働き、優しい自分と出会うことができた
3月6日	産経新聞		
3月7日	読売新聞	法医学 博士研究員 川島 渉	東日本大震災の歯型鑑定について
3月12日	奈良新聞	臨床研究センター 教授 笠原 正登	公開講座「県民とともに創る未来への医療—新型コロナに立ち向かう—」を開催
3月13日	NHK BSプレミアム 生中継「闇と炎の秘儀 お水取り ～奈良・東大寺修二会～ (第2部)」	感染症センター センター長 笠原 敬	東大寺修二会「お水取り」の感染対策についてインタビュー
3月17日	NHK奈良「ならナビ」	感染症センター 講師 小川 拓	新型コロナウイルスのワクチン接種についてインタビュー
		整形外科 助教 仲西 康顕	新型コロナウイルスワクチンの接種方法についてインタビュー
3月26日	NHK奈良「ならナビ」	理事長・学長 細井 裕司	奈良ホテルにおいて「模擬立食パーティー」開催
3月29日	奈良新聞	附属病院 看護部長 橋口 智子	特集「“誇り”と“PRIDE”胸に、“地域”と“人”を支える“奈良人”」にて紹介
3月30日	NHK大阪「ニュースほっと関西」	理事長・学長 細井 裕司	奈良ホテルにおいて「模擬立食パーティー」開催
4月2日			第1回「2008年学校推薦型選抜開始後、県の医師数は25%増」
4月9日	m3.com	教育開発センター 教育教授 若月 幸平	第2回「地域医療に貢献する医師と高度先進医療を担う専門医を育成」
4月4日	SBCラジオ「こんにちはドクター」		
4月12日 ～4月16日	テレビ信州 「奥さまはホームドクター」	疫学・予防医学 特任准教授 大林 賢史	からだのリズムと健康について解説

メディア掲載情報をお寄せください

秘書・広報室(総務課) 内線：2206